

現代中国語の動補構造に関する研究  
— 方向補語を中心に —

2020 年 9 月

新潟大学大学院

現代社会文化研究科

CHEN Ying

# 目 次

凡 例 .....	I
第 1 章 序論 .....	1
1.1. 本研究の目的 .....	2
1.2. 本研究の内容 .....	5
1.2.1. 方向補語の形式 .....	5
1.2.2. 方向補語の意味 .....	5
1.2.3. 従来の研究 .....	8
1.2.3.1. “～上”について .....	8
1.2.3.2. “～下”について .....	9
1.2.3.3. “～起来”について .....	10
1.2.3.4. “～开”について .....	11
1.2.3.5. “～过”について .....	12
1.3. 本研究の方法とデータベース .....	14
1.4. 本研究の構成と概要 .....	14
第 2 章 方向補語の表す方向義について	
— “V 下”を中心に — .....	17
2.1. はじめに .....	18
2.2. 先行研究 .....	19
2.2.1. “～下”の意味 .....	19
2.2.2. L の性質 .....	20
2.3. 問題点 .....	21

2.4. 分析 .....	22
2.4.1. L は裸空間名詞とする場合 .....	22
2.4.2. L は飾り空間名詞とする場合 .....	26
2.5. まとめ .....	27
 <b>第 3 章 方向補語の表す状態義について</b>	
— 「開始」を表す“～起来”と“～开”の比較 — .....	28
3.1. はじめに .....	29
3.2. 先行研究 .....	30
3.2.1. 共起できる前項動詞 .....	30
3.2.2. 「開始」と「移動」の関連 .....	32
3.3. 分析 .....	35
3.3.1. 多方向と一方向 .....	35
3.3.1.1. 拡散と加速 .....	35
3.3.1.2. 連用修飾語との組み合わせ .....	35
3.3.2. 開始の時点 .....	37
3.4. まとめ .....	38
 <b>第 4 章 方向補語の表す結果義について</b>	
— “～上(去)”を中心に — .....	39
4.1. はじめに .....	40
4.2. 先行研究 .....	42
4.2.1. “～上”について .....	42
4.2.2. “～上去”について .....	43
4.2.3. “～下”について .....	44
4.2.4. “～起来”について .....	46

4.3. “～上”と“～下” .....	47
4.3.1. 目的語が空間概念を表す場合 .....	47
4.3.2. 目的語が動作の対象を表す場合 .....	49
4.3.2.1. 空間転移 .....	49
4.3.2.2. 痕跡形成 .....	50
4.3.2.3. 獲得行為 .....	52
4.4. “～上去”と“～起来” .....	54
4.4.1. 「空間移転」を表す“V 上去”と“V 起来” .....	55
4.4.2. 「状態変化」を表す“A 上去”と“A 起来” .....	59
4.4.3. 「評価や推測」を表す“V 上去 AP”と“V 起来 AP” .....	60
4.5. まとめ .....	63

## 第5章 方向補語の各意味間の関連性について

— “～过”を中心に — .....	66
5.1. はじめに .....	67
5.2. 先行研究 .....	68
5.2.1. “～过”の意味について .....	68
5.2.2. “～过”と共起する N.....	70
5.2.3. “～过”と“～完”の意味的共通点 .....	71
5.3. 問題点 .....	73
5.4. 分析 .....	73
5.4.1. “～过”が表す「移動」 .....	73
5.4.2. “～过”が表す「完了」 .....	74
5.4.2.1. 様態描写を加える場合 .....	77
5.4.2.2. 否定副詞を加える場合 .....	78
5.4.3. “～过”が表す「経験」 .....	81

5.5. まとめ .....	85
<b>第 6 章 複合方向補語の目的語位置について .....</b>	<b>87</b>
6.1. はじめに .....	88
6.2. 先行研究 .....	89
6.2.1. V の性質による語順の変化 .....	89
6.2.2. 目的語の性質による語順の変化 .....	90
6.3. 問題点 .....	91
6.4. 分析 .....	92
6.4.1. A 型と B 型の比較 .....	94
6.4.1.1. 移動様態を表す場合 .....	94
6.4.1.2. 「随伴移動」を要求する A 型 .....	97
6.4.1.3. 反復的な移動事態を表す場合 .....	99
6.4.2. B 型と C 型の比較 .....	100
6.4.2.1. 移動主体を焦点にする場合 .....	100
6.4.2.2. 知覚上の方向と物理上の方向を統一することを要求する B 型 .....	101
6.4.2.3. 定的な事物を表す目的語 N との共起 .....	102
6.5. まとめ .....	104
<b>第 7 章 結論 .....</b>	<b>105</b>
7.1. はじめに .....	106
7.2. 本研究の成果 .....	106
7.3. 今後の展望 .....	109
<b>参考文献 .....</b>	<b>110</b>
<b>謝 辞 .....</b>	<b>118</b>

## 凡 例

- 1、 「～」は動詞、または形容詞を示す。
- 2、 「L」は場所を表す語句を示す。
- 3、 「N」は対象物を表す語句を示す。
- 4、 記号「\*」は「非文」である例文を示す。
- 5、 記号「？」は「成立/不成立」について疑問があり、一般的には母語話者において容認度が低い例文であることを示す。
- 6、 中国語の概念は“ ”で示す。
- 7、 日本語の概念は「 」で示す。
- 8、 下線「\_\_\_\_\_」は「動詞+方向補語」を示す。
- 9、 下線「=====」は「形容詞+方向補語」を示す。
- 10、 下線「~~~~~」は否定副詞を示す。
- 11、 枠線「」は連用修飾語を示す。
- 12、 正しい例文には、日本語訳を付けてある。訳文は( )で示す。
- 13、 本研究において出典の記載がない例文は筆者によるものである。

# 第1章

## 序 論

### 1.1. 本研究の目的

本研究は、現代中国語における「動補構造」という文法範疇の下位分類の1つ「動詞(または形容詞)+方向補語」(以下、方向補語構造と記す)を研究対象とする。

方向補語構造は、中国語のみならず、多くの言語においても、その特別な統語形式と意味構造が注目されている。なかでも、中国語における方向補語は“来(lai)/去(qu)”及び“上(shang)/下(xia)/过(guo)/起(qi)/开(kai)”などの一音節動詞の単純方向補語と、“上来/上去”、“下来/下去”のような二音節の組み合わせで構成される複合方向補語の2種類がある。

従来、中国語の方向補語に関する研究では、以下のいくつかの問題が主に議論されてきた。第一に、後接する空間名詞に関する問題である(丸尾 2005; 王志英 2007)。第二に、各派生義の関連性の問題である(孔令达 1986; 丸尾 2005; 島村 2016)。第三に、他の動補構造と意味上の類似性の問題である(刘月华 2008; 吕叔湘 2019; 王志英 2006; 劉綺紋 2006; 于康 2012)。第四に、複合方向補語の目的語位置の問題である(杉村 1994; 守屋 1995; 吕叔湘 2019; 西川 2007; 丸尾 2010; 刘月华等 2019)。方向補語に関する研究は多いが、その特性が十分に明らかになったとはいえない。

一方、中国語の談話を観察すると、方向補語は使用頻度が高い文法形式であり、また、ほとんどの初級文法テキストでも、重要な文法事項として扱われている。しかし、その意味と用法は多様で、それらを統一的に理解することはなかなか難しい。

#### (1) a. 跳下床

(ベッドから飛び下りる)

#### b. 跳下水

(水に飛び込む)



c. 走下舷梯

(タラップを歩いて下りる)

(2) a. 走过天安门广场。(吕叔湘 2019:245)

(歩いて天安門広場を通り過ぎる。)

b. 我接过奖状走下台去。(吕叔湘 2019:245)

(私は賞状を受取って台の下へ降りた。)

c. 窗外闪过一个人影。《白》<sup>1)</sup>

(窓の外を1つの人影がさっと通り過ぎた。)

(3) a. 他们今天一见面就谈上了。

(彼らは今日顔を合わすとすぐに話しかけた。)

b. 他们今天一见面就谈开了。

(彼らは今日顔を合わすとすぐに話しだした。)

c. 他们今天一见面就谈起来了。

(彼らは今日顔を合わすとすぐに話しはじめた。)

(4) 椅子一脚運んで入ってくる。(杉村 1994:272)

a. 搬一把椅子进来。

b. 搬进一把椅子来。

c. 搬进来一把椅子。

(1)から(4)はいずれも、述語の部分が方向補語を伴っている。(1)は“～下+空間名詞”という形で類似しているが、(1a)の“床(ベッド)”は動作の起点であり、(1b)の“水(水)”は動作の到達点であり、(1c)の“舷梯(タラップ)”は移動する経路としか理解できない。日本語の場合、空間名詞と述語の関係を「カラ格」や「ニ格」、または「ヲ格」から取り出すことができるが、中国

---

<sup>1)</sup> 『白水社 中国語辞典』, 伊地智善継編, 白水社, 2002。本研究では略称して《白》と記す。

語では、“～下”の後ろが空間名詞であれば、起点からの出発、着地点への到着、あるいはある道具に沿う経路での移動を表すことが可能である。要するに、中国語において、「～から落ちる/下りる」「～に落ちる/下りる」と「～を落ちる/下りる」の違いが統語的に反映されていないということである。すると、“～下”とその場所目的語の意味関係はどうなっているのだろうか。また、(2)の例文については、“过”の基本義が「通過」であるため、“～过”の後ろは「通過点」の後ろには「通過点」を表す表現をしばしば伴う。例えば(2a)がその典型である。しかし、(2b)の“奖状(賞状)”は動作の対象であり、(2c)の“一个人影(1つの人影)”は移動の主体であり、いずれも具体的な通過対象を捉えることができない。これらの用例において、方向補語の“过”は「通過点」として「なに」を超えているのか、また、動補構造“～过”はいかなる意味特徴を持っているのか。さらに、(3)のような例では、“～上”、“～开”と“～起来”は動作の開始を表し、日本語の「～しはじめる」という意味を表す。なぜ方向義が異なる3つの方向補語が「開始義」を表すことが可能なのであろうか。また、「開始義」を表す際に、それらは置き換えられない場合もある。果たしてどのような意味上の違いがあるのか。そして(4)が示すように、複合方向補語とその目的語の語順には3つの種類がある。つまり、目的語は複合方向補語の間に位置してもよいし、複合補語の前後に位置してもよいことになるが、これら3種類の語順の成立要件はそれぞれ異なる。この3種類の語順のそれぞれの特徴と成立要件は何なのであろうか。

本研究はこれらの問題点を解明するために、方向補語を伴う動補構造の“～上(来/去)”、“～下(来/去)”、“～起来”、“～开(来)<sup>2)</sup>”、“～过(来/去)”を中心例とし、以下のテーマをめぐって、分析を行う。なお、これらの方向補語を選ぶ理由は1.2で詳しく説明する。

---

<sup>2)</sup> 現代中国語において、“～起来”と“～开去”の使用頻度は低いため、本研究の研究対象から除外する。

- ① 方向補語とその目的語の意味関係
- ② 方向補語が表す事件発展の結果
- ③ 方向補語が表す時間的趨向
- ④ 方向補語の各意味間の関連性
- ⑤ 複合方向補語の語順

## 1.2. 本研究の内容

### 1.2.1. 方向補語の形式

本研究で考察対象とする表現は、“上”、“下”、“出”、“起”、“开”、“过”、及びそれらと“来”、“去”を組み合わせたものである。方向補語の形式は二種類に分類される。方向補語の範囲をどのように定めるかは、各研究者(朱德熙 1982; 刘月华 2008; 孟琮 1999; 杉村 1994; 陆俭明 2002)により見解が異なるが、“上”、“下”、“起”、“开”、“过”、“来”、“去”等の一音節動詞の単純方向補語は一般に方向補語として認められており、人または事物の相対的な位置変化を表す。“上去”、“下来”、“起来”、“开来”、“过去”等の二音節の組み合わせで構成される複合方向補語は、二つの方向動詞が組み合わせられて人または事物が話し手(の立脚点)から離れてある方向に向かって移動することを表す。

### 1.2.2. 方向補語の意味

方向補語の意味に関する代表的な研究としては、陈昌来(1994)《论动后趋向动词的性质—兼谈趋向动词研究的方法》と刘月华(2008)《趋向补语通释》が挙げられ、方向補語の意味研究の基礎になった。陈昌来(1994)は方向補語に多義性があることを指摘し、方向補語の意味を「方向義」、「結果義」、「動態義」に三分した。そして、刘月华(2008)はすべての方向補語の意味を

「方向義」、「結果義」、「状態義」に分け、移動方向を示す「方向義」が方向補語の基本的な意味であり、「結果義」は「方向義」より抽象度が高く、もっとも抽象度が高いのは「状態義」であると指摘している。両者の研究において、「動態義」と「状態義」が指す内容には大きくの違いがなく、本研究では「状態義」の述語を使用する。以下方向補語構造“～起来”が用いられる例文を挙げて、これら3つの意味を説明する。

#### A類：方向義

刘月华(2019:544)によれば、「趋向补语的趋向意义是基本意义，也就是趋向动词本身所表示的意义，即方向意义。趋向补语的趋向意义表示人或物体通过动作以后，在空间位置移动的结果(方向意味は方向補語の基本意味であり、方向動詞本来の意味を表し、すなわち方向補語の方向義である。方向義は、人あるいは事物が動作を通して移動し、空間転移の結果を表す。)」

(5) 江涛一见严之孝，立刻站起来。(刘月华 2008:341)

(江涛は嚴之孝を見ると、すぐ立ち上がった。)

(6) 祥子扛起来铺盖。(刘月华 2008:343)

(祥子は布団を担いだ。)

#### B類：結果義

刘月华(2008)によれば、「結果義」は動作の結果または目的の達成を表す意味機能である。

(7) 他把大家的意见归纳起来。(刘月华 2008:348)

(彼は皆の意見をまとめた。)

(8) 这个班的学生一个人一个想法，老也统一不起来。(刘月华 2008:349)

(このクラスの生徒たちの考えはばらばらで、いつもまとまらない。)

(9) 何順笑了，又把钱装起来。(刘月华 2008:354)

(何順は笑って、お金をしまった。)

#### C類：状態義

「状態義」とは、刘月华(2008)によれば、動作あるいは状態の時間領域における展開過程を表す意味機能である。

(10) 江华听她这样说，忍不住笑起来。(刘月华 2008:365)

(江華は彼女の話聞いて、つい笑い始めた。)

(11) 小小的公寓在黄昏的暮色中骤然热闹起来。(刘月华 2008:368)

(小さなアパートは夕暮れの中、急に賑やかになってきた。)

この3つの意味機能の関係は方向補語の特性と深く関連していることが考えられる。

刘月华(2008:2)は「全部趋向补语都具有趋向意义，大部分趋向补语有结果意义，少数趋向补语有状态意义。(すべての方向補語は「方向義」を持ち、ほとんどの方向補語は「結果義」を持ち、一部の少数の方向補語は「状態義」を持つ)」と述べている。刘月华(2008)の分類によると、方向補語の中で「状態義」を持つのは“～上”、“～下(来/去)”、“～起来”<sup>3)</sup>、“～开(来)”のみで

---

<sup>3)</sup> 刘月华(2008)によると、方向補語には、「開始義」を表すのは上記の方向補語以外、“～起”、“～下”も「状態義」を表すことができるが、それぞれに対応する複合方向補語“～起来”、“～下来”より、使用範囲が狭い。構文の形式上、“～起”、“～下”の後に目的語が付くことは多く、“～起来”、“～上”、“～开(来)”、“～下来”と異なるため、同じ構文で置き換えられることが不可能である。

我推开了他，心却怦怦跳{起来/\*起}。  
(私は彼を押し離れたが、心がどきどきし始めた。)  
等天都黑{下来/\*下}才能回家。  
(日が暮れた後に家に帰れる。)

上述したように、本研究では“～起”、“～下”を議論しない。

ある。そこで、本研究の研究対象は、3つの意味機能の関係を明らかにするため、このすべてを持つ、“～上”、“～下(来/去)”、“～起来”、“～开(来)”を主要な研究対象として選択する。またこれらと別に、経験を表す“～过”はアスペクト的用法も有するため、各意味間の関連性における比較研究の対象とする。

### 1.2.3. 従来の研究

中国語の方向補語に関して、これまでも、多くの研究者が細かく分析している。1980年代以降、中国語学の研究者たちは方向補語の多義性に注目し、各意味間の関係を分析し始めた。1990年代には、意味論、語用論など言語学理論が広がることをともない、理論と言語事実を結び付ける分析が多く見られるようになった。そして、方向補語の空間的な意味が他の領域に転用される意味拡張現象も注目され、研究成果は旧来より数多くなってきた。また、近年には、非中国語母語話者に対する中国語教育が盛り、中国語学習者が混同しやすい類義語の意味分析が盛んに行われている。方向補語構造“～上(来/去)”、“～下(来/去)”、“～起来”、“～开(来)”、“～过(来/去)”に関して、それぞれの個別的な研究成果がすでに多く提出されている。以下には従来の研究の中で代表的な研究成果を取り上げながら概観する。

#### 1.2.3.1. “～上”について

方向補語構造“～上”に関する先行研究では、“～上”の品詞性について、様々な議論が行われている。一部の学者(丁声树 1961; 孟琮 1987; 刘月华 2008)の観点によると、動詞や形容詞の後に現れるすべての“上”は「補語」として扱われるべきである。一方、この説と異なり、陈昌来(1994)と范晓(1996)は、一部の“～上”は本来の意味から離脱し、助詞としての文法機能を有し、

“～上”は「方向・結果動詞」と「アスペクト助詞」二つの品詞性を持つと述べている。

方向補語構造“～上”の意味分類について、陈昌来(1994)、刘月华(2008)の三分説以外に、史锡尧(1993)は“～上”の意味を「上昇」、「除去」、「完成」、「閉鎖」、「達成」、「開始」の6つに分類している。さらに、王硕(2008)は史锡尧(1993)に基づき、“～上”の「上昇」の意味を「空間位置の上昇」と「社会地位の上昇」に分けている。

“～上”の意味変化に関して、蒋华(2003)、梁银峰(2007)は共時的な観点から“～上”の意味機能を考察し、“～上”の意味変化は「方向義→結果義→状態義」という順に従うことを証明している。さらに、于康(2006)は動詞“上”と補語“～上”の比較研究を通じて、両者の意味関係を「同義関係」、「部分同義関係」、「非同義関係」の3つに分けている。方向補語構造“～上”は「上方への移動」の意味をプロトタイプとし、その中に、「空間上の上方移動」、「心理上の上方移動」、「移動後停留する位置」という3つの意味成分を含むと述べている。王秀英(2014)は日中対照の視点から、「“～上”の意味は動作が行われる空間と時間の両方に関わっている」(王秀英 2014:71)と説明している。

#### 1.2.3.2. “～下”について

“～下”の基本義について、吕叔湘(2019)は“V下+場所目的語”は人あるいは事物が動作と共に高い所から低い所へ移ることを示すと述べている。また、王志英(2006)では、目的語が起点であれば、ある事物及び場所から離れ、「分離、遺棄、決定、停止、残す」などの意味を表し、目的語が到達点であれば、移動主体が上から下へその目的語を移動させ、獲得するという意味を表すと説明されている。

また、“～下”の派生義に関しては、これまで主に“～下来”と“～下去”が議論の対象となってきた。ここでは、本研究に関わる“～下来”について先行研究を概観する。

卢英顺(2006)は“～下来”の「派生義」を「継続」、「離脱」、「保存」、「終止」、「状態」の5つに分け、これらの意味関係について分析した。それによれば、「継続」義、「離脱」義、「終止」義は、それぞれ「下方への移動」というプロトタイプの意味と類似性を有するため、「下方への移動」義からの拡張と見られる。そして、「状態」義は「離脱」義からの拡張であり、「保存」義は「終止」義からの意味拡張である。このように卢英顺(2006)は、“～下来”の各派生義の意味特徴を分析する上で、各意味間の関係についても言及している。

刘月华(2008)は、“～下来”はすべてのマイナスの意味の形容詞と共起できると指摘している。この点に関して、高顺全(2001)は“～下来”の主な意味を担っているのは“～下”であり、「状態が不幸になる」ことが含意されるため、“～下来”はマイナスの意味の形容詞に後接されると推察している。

#### 1.2.3.3. “～起来”について

“～起来”の意味の分類について、多くの学者は陈昌来(1994)、刘月华(2008)の方向補語の意味三分説に賛成したが、一部の学者(王志英 2003; 贺阳 2004; 李敏 2005)は異議を述べている。

王志英(2003)は動作主体の性質によって、“～起来”の意味を大きく主体が人間である場合と自然界の物事である場合との2つに分け、「動き出し・立ち上がる」という基本的意味が存在すると述べている。

贺阳(2004)は“～起来”の意味は前項動詞で決められると主張し、“～起来”の意味を動詞の意味により改めて分類している。李敏(2005)では、「方向義・結果義」を表す場合、“～起来”は方向補語であり、時間的意味を表



す場合は“～起来”は“了”、“着”、“过”と同じ、アスペクト助詞とすべきであると指摘している。

また、钟兆华(1985)、吴锡根(2001)、王国栓(2005)、梁银峰(2007)は共時言語学の観点から、“～起来”の意味拡張を考察した。“～起来”は最初、方向動詞として使われ、五代の時期から方向を表す補語の用法が生じ、「状態義」を表す用法が最後に出現したと指摘している。一方、齐沪扬、曾传禄(2009)は空間上の移動を表す“～起来”の意味がメタファーにより、抽象的な概念領域へ拡張したことを主張し、“～起来”の意味をカテゴリ化した上で、それぞれの意味特徴分析している。

王晓凌(2011)は“～起来”の基本的な意味が「下から上への移動」であると述べ、「結果義・状態義」のほか、「中動義」の存在を提出した。つまり、“～起来”は心理領域への拡張により、“看起来”(見たところ)のような主観的評価を表す「中動義」が形成されたとする。

#### 1.2.3.4. “～开”について

“～开”の意味分類について、刘月华(2008)の説が研究の発端となり、王国栓(2005)、丸尾(2014)、島村(2016)などの学者が“～开”の意味用法について考察を行っている。刘月华(2008)は“～开”の意味を大きく三分した上で、さらに“～开”の「結果義」について「離脱」、「拡散」、「収容」「明晰」という4つの下位分類を提示している。

島村(2016)は刘月华(2008)に基づき、“～开”の意味項目をさらに分類し、「露呈」、「達観」、「解消」という意味特徴を提示し、各意味間の関係をネットワークの形式で説明している。

“～开”の意味拡張について、王国栓(2005)は“～开”の「状態義」は「結果義」から派生した意味ではなく、直接に「方向義」から派生したものであると主張している。王国栓(2005)は古代中国語の文献において、補語の“～

开”の出所を考察した。年代順から見れば、“～开”の意味拡張は「結果義」から「方向義」へ拡張し、「状態義」が最後に形成されるという変化過程である。

丸尾(2014)は“～开”の「方向義」と「状態義」の関連性を考察した上で、“～开”の「状態義」は「方向義」から派生した意味であると主張している。その意味上の繋がりについては、次のように述べている。

「…… “～开”の表す移動という概念から見ると、『離脱以後の到達点が想定できない動きの過程(持続的)』という空間領域に関わる概念を時間領域(起動相～継続相)に転用したものと言える。」

(丸尾 2014:177)

#### 1.2.3.5. “～过”について

方向補語構造“～过”が「空間移動」を表す場合、その意味は次のように説明される。(吕叔湘 2019; 刘月华 2008)

- A. ある場所を通り過ぎる。
- B. ある場所から別の場所へ移る。
- C. 物体が動作によって方向を変える。

また、丸尾(2014:106)によれば、「移動」のイメージ・スキーマは図式化でき、“～过”の表す移動義を図式化すると「その経路が強調される」一方、「起点と到達点が強く意識される」と指摘する。

杉村(2009)は「ある空間を過ぎる動き」という定義では、方向補語である“～过”のもつ方向性を表現できていないと指摘する。そこで、「二つの対立空間を結ぶ関係」から方向を得るという視点で考え、“～过”の表す移動を

「こちら」と「あちら」における転移とみなす。つまり、“～过”が表すのは『こちら』と『あちら』を仕切る境界」を越える動きと捉え、これにより“～过”の持つ方向性が示されるとする。

また、統語的な研究に関して、高橋(2013)は、「“～过”+場所目的語」の組み合わせで作る連語を文法的なふるまいによって分類する。「“～过”+場所目的語」は連語論的な意味と構造的なタイプによって、基本形である「空間的な通過を表すむすびつき<sup>4)</sup>」とその変形の「空間に向かうことを表すむすびつき<sup>5)</sup>」を作ることができる。「空間的な通過を表すむすびつき」の場合、“～过”と共起する名詞は主体が通過する空間、あるいはその通過ルートの前後左右上下を表すと指摘している。

一方、動作・作用の完了を表す形式として、“～过”に関する研究はこれまで多く行われている。朱繼征(2000)は、“～过”は、独立した出来事としての動作の完了を表すと指摘している。動作を独立した出来事と見なす文、或いは脈絡の中では、“～过”しか使えない。また、刘月华(2008)、吕叔湘(2019)では、動作性の弱い動詞は動作の完了を表す“～过”をともなえないと指摘している。例えば、非動作動詞(“是(である)”、“成为(なる)”など)、心理状態や態度を表す動詞(“害怕(怖がる)”、“担心(心配する)”、“赞成(賛成する)”、“尊敬(尊敬する)”など)、認知動詞(“认识(認識する)”、“懂(分かる)”など)、能願動詞(“能(できる)”、“要(しようとする)”など)、一つの具体的な動作を表さない動詞“教学(伝授する)”、“侵略(侵略する)”など、非自主動作動詞(“咳嗽(せきをする)”、“漏(漏れる)”など)は“～过”と共起できない。

---

<sup>4)</sup> 高橋(2013)の原文は「空間的な通過のむすびつき」と記す。

<sup>5)</sup> 高橋(2013)の原文は「空間的な向かいのむすびつき」と記す。

### 1.3. 本研究の方法とデータベース

本研究は主に『中国語補語用例 2000』<sup>6)</sup>に収録された方向補語“上”、“下”、“起”、“开”、“过”に関する例文について考察を行う。『中国語補語用例 2000』は、常用の動詞・形容詞 1072 語を見出し語とし、それぞれ補語の組み合わせの用例を挙げて説明する専門書である。さらに、本研究は冒頭で言及した単純方向動詞 5 個とそれらの複合補語 8 個を取りあげ、北京大学中国語言語研究センター(CCL)<sup>7)</sup>が提供する現代中国語のコーパスから、関連用例の検出を試みる。本研究で主に使用するデータベースにはエッセイ、雑誌、小説、説明文、論説文、辞書、新聞、テレビ・ドラマのセリフなどが収録されており、一般公開されているものである。また、日常会話においてよく使われる表現に関しては、『白水社 中国語辞典』<sup>8)</sup>も用例収集に活用した。

また、本研究の作例の容認度については、中国語のネイティブスピーカーに対するウェブアンケート調査を実施し、チェックを受けた。

### 1.4. 本研究の構成と概要

本研究は本章「序論」を含む 7 章から構成されている。

第1章 序論

第2章 方向補語の表す方向義についての考察— “V下”を中心に —

第3章 方向補語の表す状態義についての考察— 「開始」を表す“～起来”  
と“～开(来)”の比較 —

第4章 方向補語の表す結果義についての考察— “～上(去)”を中心に —

第5章 方向補語の各意味間の関連性についての考察— “～过”を中心に —

---

6) 『中国語補語用例 2000』, 侯精一・蔡文蘭・徐枢著(田中信一・武永尚子・西槇光正訳編), 東方書店, 2015。本研究では略称して《中》と記す。

7) <http://ccl.pku.edu.cn>

8) 『白水社 中国語辞典』, 伊地智善繼編, 白水社, 2002。本研究では略称して《白》と記す。

## 第6章 複合方向補語の目的語位置についての考察

## 第7章 結語

第2章以降の各章の概要は、以下の通りである。

第2章では、先行研究の成果とその問題点をふまえた上で、“下(来/去)+場所目的語L”がそれぞれの振る舞いによって異なる意味を表すことに着目する。“～下”とその場所目的語の意味関係を明らかにする。

第3章では、方向補語の「状態義」について分析するため、「開始」を表す“～起来”と“～开(来)”の比較研究を行う。“～起来”と“～开(来)”が置き換えられか、それとも置き換えられないかに着目し、それぞれの意味の共通点と相違点を分析する。

第4章では、“～上(去)”と“～下”、“～起来”における方向義と結果義間の関連に着目し、それぞれの意味特徴を考察する。目的語の特徴や性質によって、移動表現において強調される部分が異なることを問題点として指摘し、“～上(去)/下/起来”とその目的語の意味関係を検証する。

第5章では、方向補語構造“～过”の基本性質は「通過」という方向義を表すことであり、そこから「完了」と「経験」という二つの結果義が派生するという観点に従い、“～过”が表す各用法の関連性を考察する。それに対して、動作・作用の完了を表す“～完”は「開始点→終了点」のような「移動」のイメージが意識され、統語上、結果補語とされているが、時間領域での「移動」という面においては、方向補語としての“～过”と並行的な意味特徴を持つことが考えられる。そこで、“～过”と“～完”を比較し、両者の使い分けをさらに掘り下げ、分析する。

第6章では、杉村(1994)の主張を踏まえ、複合方向補語とその目的語の語順をA型(“搬一把椅子进来”)、B型(“搬进一把椅子来”)、C型(“搬进来一把椅子”)という三種類に分け、考察を行う。これらのうち、目的語が複合方向

補語の間に置かれるB型は、基本形として考えられており、その成立要件についてはすでに多くの研究がなされているが、A型とC型についてはこれまで十分に考察されてはこなかった。本研究はまず、これまでの研究を整理し、三種類の語順のそれぞれの特徴と成立要件を明らかにする。

第7章では、本研究で議論された課題を総括し、筆者の見解をとりまとめ、今後の課題と展望を述べる。

本研究の第2章～第6章は、下記に掲載する発表済みの各論文に加筆修正を施したものである。

第2章：陳瑩(2017b)

第3章：陳瑩(2020a)

第4章：陳瑩(2019)、陳瑩(2020b)

第5章：陳瑩(2017a)

第6章：陳瑩(2018)

## 第2章

### 方向補語の表す方向義について

— “V 下” を中心に —

### 2.1. はじめに

現代中国語において、方向補語構造の“V 下”は場所を表す名詞(以下 L と記す)と共に起し、人あるいは事物が動作と共に高い所から低い所へ移ることを示す(呂叔湘 2019)。日本語の場合、それに対応する表現には「場所名詞+から+動詞 V」あるいは「場所名詞+に+V」などがある。例えば

#### (1) 跳下床

(ベッドから飛び下りる)

#### (2) 跳下水

(水に飛び込む)

日本語の場合、L と動詞の意味的關係を「カラ格」かまたは「ニ格」から取り出すことができる。しかし、中国語では同じ“跳下+L”という形でありながら、(1)の“床(ベッド)”は動作の起点であり、(2)の“水”は動作の到達点となる。方向補語“下”の後ろが空間名詞であれば、“～下”の後ろが空間名詞であれば、起点からの出発、着地点への到着を表すことが可能である。また、以下のような例もしばしば見られる。

#### (3) 走下舷梯

(タラップを歩いて下りる)

(3)の“舷梯(タラップ)”は動作の起点でなく、到達点でもない。「ヲ格」が現れる以上、「移動する経路」と理解すべきだろう。

それに対して、“V 下+L”は主体や事物が高い場所から低い場所へ移動することを表すが、L の特徴や性質によって、強調されている部分が異なることが分かる。起点が強調されていれば、〈離脱+落下〉であり、「～から落ちる



「～を下りる」を表す。到達点が強調されていれば、〈落下+到達〉となり、「～に落ちる/下りる」を表す。移動する経路が強調されていれば、「沿う+落下」となり、〈～を下りる〉を表す。しかし、なぜか中国語においては、「～から落ちる/下りる」「～に落ちる/下りる」と「～を落ちる/下りる」の違いが統語的に反映されていない。

本章は、先行研究の成果とその問題点をふまえた上で、“下”がそれぞれにゲシュタルトとしてあり、状況に応じてその部分が活性化していると考え、“～下”とその場所目的語の意味関係を明らかにする。

## 2.2. 先行研究

### 2.2.1. “～下”の意味

呂叔湘(2019)では、“V 下+L”が人あるいは事物が動作と共に高い所から低い所へ移ることを示すと述べている。L がその移動における高い所を指すとき、つまり「起点」を表すと、V と“下”の間に“得(de)/不(bu)”を挿入できる。

#### (4) a. 走下楼

(階段から下りる)

#### b. 走 {得/不} 下楼

#### (5) a. 滚下山坡

(山の斜面を転げ落ちる)

#### b. 滚 {得/不} 下山坡

#### (6) a. 跳下电车

(電車から飛び降りる)

#### b. 跳 {得/不} 下电车

(7) 这些木材月底前运得下山运不下山？

(これらの材木を月末までに山から運び下せますか？)

Lがその移動における低い所を指すときは“得/不”を挿入できない。

(8) a. 跳下水 (= (2))

(水に飛び込む)

b. \*跳 {得/不} 下水

(9) a. 沉下河底

(川底に沈む)

b. \*沉 {得/不} 下河底

また、王志英(2006)では、方向補語の“～下”の後は場所目的語であれば、主体や事物は動作を伴い、起点から移動するか、到達点に到達するかを表すし、目的語は起点であれば、ある事物及び場所から離れ、「分離、遺棄、決定、停止、残す」などの意味を表し、それが到達点であれば、移動主体が上から下へその目的語を獲得<sup>1)</sup>することになるという意味を表す。

### 2.2.2. Lの性質

黄利恵子(2002)は、方向補語の目的語が「到達点/存在点」を表すと、方位詞が必要となると指摘する。従って、方位詞を付加した“\*跳下水里”が非文となり、“跳下水(水に飛び込む)”の“水”が「到達点」ではないことが窺えると述べている。

---

<sup>1)</sup> 王志英(2006)の原文は「もしその目的語が到達点であれば、移動主体が上から下へその目的語を所有することになるという意味を表す」と記す。

一方、中根(2008)は、方向補語にはそれぞれ対応する「参照領域」があることを提出する。「方向」が、一個の起点と一個の到達点を結ぶものではなく、空間領域を参照して確定されるものであり、そして参照となる空間領域は、各方向動詞の表す意味により条件が規定されている。また、「V+方向補語」のLにはだかの名詞が用いられると指摘し、次の例を挙げる。

(10) a. 跳進游泳池

(プールに飛び込む)

b.\*跳進水

c. 跳下水 (= (2))

(水に飛び込む)

(10)の“游泳池”は“跳進”の「参照領域」として適格であり、(10)の“水”は“跳進”の「参照領域」として不適格である。しかしその理由は、“水”が物質名詞であり「場所」でないため、方位詞を付加し“跳进水里”としなければならないからであることない。そもそも「参照領域」は「場所」という概念とは無関係であると思われる。ところが、(10)のように、“水”ははだかのままで、“跳下”の「参照領域」として用いられることができる。輪郭は曖昧であるが、“水”は川であっても池であっても必ず水面を持ち、その下にある程度の深さを有しているものであり、その形態が「(動作主体の位置から)下へ広がる空間領域」という条件に適合するため、“跳下”の「参照領域」としては適格となるのである。

### 2.3. 問題点

先行研究では、Lの特徴や性質によって、強調されている部分が異なることを問題点として取り上げている。

呂叔湘(2019)はLを二種類に分けている。Lが高いところを指す場合、“V下”は可能補語になることができるが、Lが低いところを指すと、“V下”は可能補語になれないと指摘する。しかし、その原因については言及していない。

黄利恵子(2002)は方位詞を付加した“\*跳下水里”を取り上げ、“水”は「到達点」ではないと述べているが、それは方位詞“里”と方向補語“下”が対応していないからだと考える。“水里”を“水底”とし、方位詞を指す空間概念が補語を持つ方向性と一致するのは、方向補語構文の成立条件となる。

(11) 沉下水底

(水底に沈む)

(12) 躲进教室里

(教室に逃げ込む)

中根(2008)が述べたように、「V+方向補語」の目的語は、まず形態的に方向補語の「参照領域」と対応しなければならない。“底(そこ)”と“下”、“里(なか)”と“进”における、それぞれの対応関係が成立するため、(11)と(12)は非文ではない。したがって、“水”が「到達点」ではないことを改め検討する余地がある。

## 2.4. 分析

### 2.4.1. Lは裸空間名詞とする場合

本節はまず、Lは裸空間名詞とするとき、“V下+L”構造と副詞との共起関係を考察する。その結果、Lが起点、または移動する経路を示す場合、“V下+L”は持続を表す副詞“在(zai)/正在(zheng-zai)”と共起できることを検証した。

(13) {在/正在} 走下楼。

(階段から降りている。)

(14) {在/正在} 滚下山坡。

(山の斜面を転げ落ちている。)

(15) {在/正在} 跳下电车。

(いままさに電車から飛び降りている。)

(16) {在/正在} 走下舷梯。

(タラップを下りている。)

(17) 少女 {在/正在} 跑下楼梯。

(少女が階段を駆け下りてきていた。)

(18) 负伤的士兵 {在/正在} 被抬下吊桥。

(負傷した兵士たちが運ばれて、つり橋を下りてきていた。)

“V下+L”が“在/正在”と共に起るケースをコーパスで検索してみると、  
以下の諸例が現れている。

(19) 我抬起头看，看见希刺克厉夫正在走下山庄…… (CCL:艾米莉・勃朗特  
《呼啸山庄》<sup>2)</sup>)

(私は見上げたら、ヒースクリフがちょうど山荘から降りてきた。)

(20) 一位高大、佝偻的英国人正在走下跳板。 (CCL:厄尔・德尔・比格斯《没有  
钥匙的房间》<sup>3)</sup>)

(長身で、前かがみのイギリス人が、踏み板から降りてきたところだった。)

---

<sup>2)</sup> 《呼啸山庄》，艾米莉・勃朗特(张杨訳)，人民文学出版社，1999。

<sup>3)</sup> 《没有钥匙的房间》，厄尔・德尔・比格斯(孙小芬、刘宝芬、吕玉明訳)，群众出版社，1999。

(21) (他) 向着正跳下车的那些匪装打扮的人笑嘻嘻地扬手。(CCL:曲波《林海雪原》<sup>4)</sup>)

(彼は車から降りてきた土匪格好の人たちに向かって、ニコニコして手を振っていた。)

(22) 终于追上了正跳下摩托车的劫匪。(CCL:2000 年《人民日报》)

(やっとモーターバイクから降りてきたところの強盗たちを追いつけた。)

L が移動における高いところを指すとき、“V 下+L”は「～から落ちる/下りる」を表す。(19)から(22)において、“山庄(山莊)”、“跳板(踏み板)”、“车(車)”、“摩托车(モーターバイク)”は動作の終止点より高いところであり、移動の起点を示す。また、到達点は言明されていないが、後続文から「動作の到達」が実現したことは明らかである。ここで強調される部分は<高→低>という移動自身と理解すべきだと考える。L が移動の起点を示す場合、“V 下+L”は<+過程性>であることを考える。

一方、L が移動における低いところを示すとき、“V 下+L”と“在/正在”との共起は不自然であるため、<-過程性>に見られている。

(23) ? 他 {在/正在} 跳下河，企图救起那个同学。

(24) ? 大量的沙石 {在/正在} 被冲下河床底。

(25) ? 他 {在/正在} 被人推下水库，淹死了。

(26) ? {在/正在} 把他推下山沟。

---

<sup>4)</sup> 《林海雪原》，曲波，人民文学出版社，1978。

さらに、L が移動の到達点を示す“V 下+L”には、前項動詞 V と“下”の間に“得/不”が挿入できなく、可能表現になれない。それを否定するには“没(meí)”を使わなければならない。

否定副詞“不(bù)”と“没(meí)/没有(meí-you)”の相違について、朱繼征(2000)は「“不”は『行動意識』の段階だけを否定する。“没/没有”は『行動意識』の段階を認め上で、その『行動実行』の段階を否定する」と指摘している。つまり、“不”が行動の可能性を否定し、“没/没有”が行動の発生を否定する。そこで、L が移動の到達点を示すときは「行動実行」に関わっていることが考えられる。

(27) a. 輪船還沒沉下水底。

(汽船は未だ水底に落ちていない。)

b.\*輪船還不沉下水底。

(28) a. 他並沒有掉下井底。

(彼は井戸の底に落ちていなかった。)

b.\*他並不掉下井底。

(29) a. 沒把他推下山沟去。

(彼を谷下に突き落としてなかった。)

b.\*不把他推下山沟去。

(27)から(29)までの“水底(水底)”、“井底(井戸の底)”、“山沟(谷下)”はいずれも低いところであり、移動の到達点を表す。表現の重点は移動の過程にあるのではなく、「下への移動が実現した」という結果にある。ここでの“V 下+L”は<-過程性>と同時に、<+限界性>であることが見られている。動作終了後の状態を強調し、移動の到達点が強調される。

#### 2.4.2. L は飾り空間名詞とする場合

目的語を飾り空間名詞とする例は数多く見られる。

(30) “有人掉下水里啦!” (CCL:1994 年报刊精选)

(誰かが落ちちゃった!)

(31) 掉下深沟里去了。(CCL:弗兰克・鲍姆《绿野仙踪》<sup>5)</sup>)

(深い谷間に落としちゃった。)

(32) 将被俘军民推下河水中。(CCL:1995 年《人民日报》)

(捕虜たちを河水に突き落とした。)

(30)から(32)が示したように、到達点を示し、移動の結果を意味する。また、その否定形式に関して、“没(meì)”のみを用いる。

(33) a. 有人没掉下水里。

(誰かが水に落ちていない。)

b.\*有人不掉下水里。

(誰かが水に落ちない。)

(34) a. 没掉下深沟里去。

(谷間に落としていない。)

b.\*不掉下深沟里去。

(誰かが水に落ちない。)

(35) a. 俘虏们没被推下河水中。

(捕虜たちが河水に突き落とされていない。)

b.\*俘虏们不被推下河水中。

(捕虜たちが河水に突き落とされない。)

---

<sup>5)</sup> 《绿野仙踪》，弗兰克・鲍姆(张建平訳)，上海译文出版社，2000。



(33)から(35)が示したように、目的語が飾り空間名詞となる場合、“V 下+L”は<-過程性>であり、<+限界性>となる。

## 2.5. まとめ

中国語の“下”は日本語の「オリル」という動詞に当たる。日本語では、主体の移動起点に着眼すれば「カラ」を使い、移動の経路を着眼すれば、「ヲ」を使い、到達点に着眼すれば、「ニ」を用いる。格助詞は「オリル」の使い分けの機能を果たしている。

しかし、中国語には日本語のように助詞というようなものがないため、動詞と目的語の関係から意味判断をしなければならない。“V 下+L”でのLの性質によって、方向補語構造“V 下”の表す意味が得られる。

Lが移動における高い所を示すとき、移動の起点が現れる。動作主の変化を捉え、「動き」が強調されている。“V 下+L”は<+過程性>である。

Lが移動の経路を示すとき、“V 下+L”は持続を表す副詞“在/正在”と共に起できるため、<+過程性>を有する。

Lが移動における低い所を示すときでは、移動の起点がほとんど明示されていないが、到達点が見える。移動後の位置状態が強調されている“V 下+L”は<-過程性>であり、<+限界性>となる。

### 第3章

## 方向補語の表す状態義について

### — 「開始」を表す

### “～起来”と“～开(来)”の比較—

### 3.1. はじめに

方向補語としての“起来”は動作が上に向かう方向性を持つことを表し、そこから「分散していたものにまとめる」という意味も持つ。例えば、

- (1) 小王把资料收集起来了。(靳卫卫 1997:265)

(王さんは資料を集めた。)

方向補語構造である“～起来”は「一点に集中していく」というイメージを表している。一方、“～开(来)”は人や事物が動作の結果、「中心から拡散する」ことを表す。

- (2) 流行性感冒在这里蔓延开(来)了。(吕叔湘 2019:329)

(インフルエンザはこの地で蔓延した。)

“～起(来)”と“～开(来)”の結果義を表す場合、一見すると相反する意味特徴を有するように思われる。しかし、状態義を表す場合、両者にはともに動作の開始を表すことができる。

- (3) 麦场刚打完,天就断断续续下开了牛毛细雨。(→下起了)(CCL:冯德英《迎春花》<sup>1)</sup>)

(脱穀場の小麦の風選を終えたところで、霧雨が時々降り始めた。)

(3)のような例では、“～起来”と“～开(来)”の意味違いは大きくない。一方、「～しはじめる」を表す場合でも、両者が置き換えられない例は存在する。

---

<sup>1)</sup> 《迎春花》，冯德英，春风文艺出版社，2003。

(4) 这些信息传播开来，会对证券的市场价格产生重大影响。(→？传播起来)

(CCL: CWAC<sup>2)</sup>)

(これらの情報が広まってしまうと、証券の取引価格に重大な影響を与える。)

(5) 只有这个地方宽了起来。(→？宽了开来)(山田 2003:21)

(そこだけ路幅が広がっている。)

“传播开来”と“传播起来”は統語レベルにおいていずれも成立するが、“传播起来”を用いると、意味として相応しくなく感じられる。また、(5)では、“宽起来”と言えるが、“宽开来”という言い方は一般でならない。果たして両者は「開始」を表す場合にどのような意味上の違いがあるのか。

本章では、「開始」を表す方向補語構造“～起来”と“～开(来)”における意味的相違を比較分析した上、話者の焦点の当て方に着目して、両者の使用上の制約要因を示す。両者は、置き換え可能の場合にもそれぞれに内包している意味とその発話意図が異なると考えられる。

## 3.2. 先行研究

### 3.2.1. 共起できる前項動詞

刘月华(2008)では、「開始」を表す方向補語構造“～起来/～开(来)”と共起できる前項動詞を挙げている。その中で、両者とも共起できるのは以下の4種類である。

- ① 言語活動及び音声を伴う動作を表す動詞。例えば、说(言う)・喊(叫ぶ)・唱(歌う)・聊(話す)・笑(笑う)など。

---

<sup>2)</sup> CWAC: 《中文学术文献语料库》

(6) a. 人们对这件事议论开了。 《白》<sup>3)</sup>

(人々はこの事について議論しはじめた。)

b. 大家乱哄哄地议论起来。 《白》

(皆けんけんごうごうと議論しはじめた。)

② 思惟や感情の展開を表す動詞。例えば、想(考える)・琢磨(思案する)・  
盘算(思い巡らす)など。

(7) a. 祥子心中打开了鼓。 (刘月华 2008:390)

(祥子の心はドキドキしはじめた。)

b. 心里打起鼓来。

(心はドキドキしはじめる。)

③ 体躯の動きを表す動詞。例えば、跑(走る)・转(回る)・哆嗦(震える)・  
闹(騒ぐ)など。

(8) a. 今天来客人，一早，她就灶前灶后忙开了。 《白》

(今日は来客があるので、朝早くから、彼女はかまどの周りを行ったり  
来たり忙しく働いた。)

b. 春天来了，农民们忙起来了。 《白》

(春がやって来て、農民たちは忙しくなってきた。)

④ 自然現象が起こるのを表す動詞。例えば、燃烧(燃える)・下(雨)(降る)・  
生长(成長する)など。

---

<sup>3)</sup> 『白水社 中国語辞典』，伊地智善継編，白水社，2002。本研究では略称して《白》と記す。

(9) a. 下了两天雨，就冷开了。 《白》

(2日ばかり雨が降ったので、寒くなりだした。)

b. 大风过后，天气冷起来了。 《白》

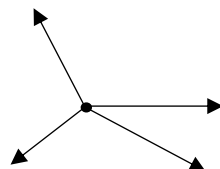
(大風が通り過ぎた後、気候は寒くなった。)

①から④に見えたとおり、統語上“～起来”と“～开(来)”は「開始」を表すことが可能である。これらのように両者とも共起できる用例を対象とし、文脈と発話意図を考慮しつつ、「開始」を表す“～起来”と“～开(来)”の意味的相違を考察する。

### 3.2.2. 「開始」と「移動」の関連

丸尾(2014:177)は、「開始」を表す“～开(来)”は「離脱以降の到達点が想定されない動きの過程(持続的)」という空間領域上の概念を時間領域(起動相～継続相)に転用したものであると指摘している。つまり、“～开(来)”は「空間上における不特定方向への離脱」という意味を表すことから、「広がり」というイメージを持つ。このため、「～しはじめた」という時間上の意味を表す場合にも、「広範囲にわたる移動」という空間上の意味特徴を同時に含むことになる。それを図式化すると、以下の図3-1のように、「個体的な“散开(散る)”や非個体的な“蔓延开(蔓延する)”」として示すことができる。

図 3-1



(丸尾 2014:167)

図 3-2



(自作図)

一方、“～起来”について、丸尾(2014:147)は「起点からの離脱を表すことが時間的にはじまり、すなわち開始義とリンクする動機づけとなっている」と指摘している。また、朱継征(2004)では、“～起来”は動作展開過程のうち、動作起動後の「加速段階」に焦点を当て、その開始を表わすと述べている。これらを図示すると、上記図 3-2 のようになる。従って、移動の方向については、“～开(来)”と異なり、“～起来”は一方向への移動を表すと考えられる。

“～开(来)”と“～起来”の比較研究はこれまで多数行われている。刘月华(2008:391)は“～开(来)”が「静的な状態」から「動的な状態」2 への変化しか表さないのに対し、“～起来”がさらに「動→静」への状態変化を表わせると指摘している。この記述は、(10)のような例を解釈できる。

(10) a. 「静的な状態」→「動的な状態」

为了一点小事就闹起来了。(→闹开了) 《白》

(ちょっとした事でかんしゃくを起こした。)

b. 「動的な状態」→「静的な状態」

心情渐渐平静起来。(→\*平静开来) 《中》

(気持ちが次第に落ち着いてきた。)

しかし、「静→動」への状態変化を表す場合でも、両者は異なるニュアンスを含意する。

(11) 这种音乐慢慢流行起来。(→流行开来) (丸尾 2014:177)

(このような音楽が次第に流行りだした。)

この例について、丸尾(2014)は次のように指摘する。

「動きを伴う動詞と“开”をともに用いた場合には、往々にして『移動』『開始』の両義が融合されることになる。(中略)“～开(来)”は『～しはじめる』の意味で“～起来”と置き換えられるが、前者を用いる場合には、さらに『広がる』イメージにより、それぞれ移動に関わる意味を見出すことが可能である。」

(丸尾 2014:177)

つまり、“流行起来”が単に「流行り」という現象の生起を表すのに対し、“流行开来”は、その「流行り」が周囲に伝わるという「移動」の意味を持つことになるのである。

一方、王志英(2007)は、“～起来”と“～开(来)”がともに使える例について観察し、“～起来”が起動して広がるという意味を表す場合、“～开(来)”に置き換えられるとして、次のような例を挙げる。

(12) 冻得他哆嗦起来了。(→哆嗦开了)(王志英 2007:61)

(彼は寒さのあまり震え出した。)

(13) 她唱了起来。(→唱开了)(王志英 2007:61)

(彼女が歌い始めた。)

(12)と(13)では空間移動との関連があまり強くなく、“～开(来)”に「移動」の意味を読み取りづらい。このような場合、“～起来”と“～开(来)”にはどのような相違があるだろうか。次の節では、“～起来”と“～开(来)”それぞれに内包している意味を考察する。



### 3.3. 分析

#### 3.3.1. 多方向と一方向

##### 3.3.1.1. 拡散と加速

命令文として使用される場面に、“～起来”と“～开(来)”の相違の一端を垣間見ることができる。

#### (14) 走开!

(どっか行け!)

#### (15) 走起来!

(さっさと歩け!)

(14)の場合、移動の状態を問わず、元の位置から離れることを要求するだけである。“～开(来)”は空間内での多方向への拡散という基本義から、動作の起点から離れることに焦点が当てられる。一方、(15)では、“～起来”構文は「(もっと)速く動け!」と加速することを命令しているのである。朱継征(2004:132)はこのような例について、“～起来”は動作起動後の、相対的な等速的「進行過程」にいたるまでの「加速段階」という動作の展開過程を意識すると説明している。ここで、“～起来”は、「上への一方向の動き」という基本義から、速度の変化を表すことになる。

時間領域を表す“～起来”と“～开(来)”には、空間領域のメタファーから得た「多方向」と「一方向」という意味要素が読み込まれている。これは、連用修飾語と組み合わせる状況にも反映されている。

##### 3.3.1.2. 連用修飾語との組み合わせ

統語上、“～起来”と“～开(来)”はいずれも空間的な広がりを表現する連用修飾語と組み合わせることができる。しかし、以下のように、前後の文脈

に従って、容認度が低くなる例がある。

(16) 1981 年，美国出版了《高技术》月刊，“高技术”一词就更加广泛地传播开来，但其内在含义已和它刚出现时有很大的不同了。（→？传播起来）（CCL:1995 年《人民日报》）

（1981 年、月刊『ハイテクノロジー』が米国で出版されるとともに、  
「ハイテクノロジー」という用語はさらに広く知られていくようになった。しかしその意味は最初と大きな違いがあった。）

(16)の“传播开来”は、「流行りの範囲が広がりはじめる」という側面を強調し、「各方向への拡散」という空間上のイメージを読み取ることができる。一方、“传播起来”は空間移動との関連が薄く、「伝播の勢いが発展しはじめる」ことを表現する。そのため、“更加广泛地”という連用修飾語を組あわせると容認度が低くなる。

一方、「速度」と関連する概念を表現する場合に、“～开(来)”を用いない。

(17) 拍卖槌从此更加频繁地响起来了。（→？响开了）（CCL:1994 年报刊精选）  
（オークションハンマーはさらに頻繁に打ち鳴らされた。）

(17)では、「さらに頻繁に」が“响”という動作の頻度を表す。ここでは、音声の拡散には範囲が焦点に当てられておらず、速度の向上が強調されている。そのため、“响开了”を用いると容認度が低くなる。

さらに、以下の例は、音波が伝播して、広がることを表現している。(18)において、“传播起来”を用いると不適切になる。その原因として、「低い音が聞こえる」のは、音声伝播の発生と同時に起こるわけではなく、伝播の範囲が広がってはじめて起こるからである。

(18) 当火车离去时，声波传播开来，就出现了较低的声音——这种现象被称为“多普勒”效应。(→? 传播起来) (CCL:《读者(合订本)》)

(ヨウスコウカワイルカは 10 尾さえあれば繁殖しはじめるが、今のところ、10 尾でも難しい状況になった。)

“繁殖开来”は「繁殖が既に一定的な程度まで発展した」ということを表し、「繁殖しはじめる」という文脈にふさわしくないである。一方、以下の例では、“繁殖开来”と“繁殖起来”両方とも適切になる。

(19) 他随手栽下一棵芭蕉，转眼就一棵、一棵地繁殖开来。(→繁殖起来)

(CCL:1998 年《人民日报》)

(彼が無造作に植えた 1 本のバショウは、みるみるうちに次から次へ生い茂ってきた。)

ここで、“繁殖开来”はバショウの成長範囲が多方面へ広がることを表現し、“繁殖起来”はその成長の勢いの発展を表すため、多方向・一方向における違いが分かりづらくなる。この場合における両者の相違は次の小節で分析を行う。

### 3.3.2. 開始の時点

以下の(20)は、『白水社 中国語辞典』に収録される用例であり、いずれも「新たな状態の開始」を表現している。ここで、“哭开”と“哭起来”には同じ「泣きだす」という翻訳が当てられているが、両者にはニュアンスの違いがある。

(20) a. 一见到亲人他就哭开了。 《白》

(彼は肉親に会うやいなやわっと泣きだした。)

b. 这孩子很怕生，一见生人就哭起来。 《白》

(この子はよく人見知りして、知らない人を見たらすぐ泣きだす。)

(20a)では、「泣く」前からすでに「泣く」の原因が存在し、それがあるきっかけで外に広がったというニュアンスを持つ。「肉親に会う」前から「泣く」という動作が潜在的な可能態として存在し、それが「肉親に会った」ことを契機として発現したことを表すのである。(20b)の場合、「知らない人」が現れない限り、「この子」が泣くことはないと感じられる。「知らない人を見た」瞬間に、「泣く」の原因が発生し、「泣かない→泣く」という無から有への状態変化が起こる。つまり、原因の発生と動作の生起が同時に起こっていると言える。これによって、冒頭で言及した(12)(13)のニュアンスの違いも説明できる。

### 3.4. まとめ

本章では、「開始」を表す方向補語構造“～起来”と“～开(来)”の使用場面を比較した上、両者の意味的な特徴を考察した。移動動詞と共起する場合、“～起来”は「一方向」と「加速」を含意し、「変化の開始」を表し、“～开(来)”「多方向」と「拡散」を含意し、「移動の開始」を表す。非移動動詞の場合、両者が表す開始の時点が異なることを明らかにした。

## 第4章

### 方向補語の表す結果義について

— “～上(去)” を中心に —

#### 4.1. はじめに

現代中国語において、方向補語構造“～上”の基本義は、人・事物が動作と共に低い所から高い所へ移動することを表し、“～下”は人・事物が動作と共に高いところから低い所へ移ることを示す(吕叔湘 2019)。

(1) a. 跳上车

(列車に飛び込む)

b. 跳下车

(列車から飛び下りる)

(2) a. 爬上岸

(岸をよじ登る)

b. 跳下河

(川に飛び込む)

(1a)の目的語“车(列車)”は移動の到達点を表すが、(1b)では起点を表す。一方、(2a)の“岸(岸)”と(2b)の“河(川)”はもともと垂直方向の「上端—下端」という反対側の位置関係にあるが、いずれも移動の到達点と解釈される。次に、目的語が動作の対象である例を挙げる。

(3) 木を植える

a. 种上树

b. 种下树

(4) 名前を書きつける

a. 写上名字

b. 写下名字

基本義からみれば、“上”と“下”は反対の移動方向を表す。しかし、上記の例が示すように、方向補語構造“～上”と“～下”は文脈によって、必ずしも反対の意味を表すとは限らない。

また、複合方向補語構造“～上去”と“～起来”は具体的な方向義を表す場合、両者とも動作を通じて、人あるいは事物が低いところから高いところへ移動することを表すことができ、意味上に重なる部分がある。両者が置き換える場合がしばしば見られる。

(5) a. 目前恐怕首先要把生产抓上去。(刘月华 2008:129)

(目下のところ恐らくまずは生産を向上させる。)

b. 目前恐怕首先要把生产抓起来。

(目下のところ恐らくまずは生産をし始める。)

(6) a. 虽然是葫芦大的一块布，不管红的绿的，我也不肯扔了，都把它缝上去。

(刘月华 2008:132)

(ヒョウタンの大きさのような布であるが、赤や緑に関わらず、私も捨てずにすべてを縫いあわせる。)

b. 虽然是葫芦大的一块布，不管红的绿的，我也不肯扔了，都把它缝起来。

(ヒョウタンの大きさのような布であるが、赤いや緑に関わらず、私も捨てることをしなくて、すべてを縫いあわせる。)

一方、“～上去”と“～起来”が置き換えない場合もある。

(7) a. 图纸交上去不久，批回来了。(刘月华 2008:129)

(図面を提出して、すぐに審査に通った。)

b.\*图纸交起来不久，批回来了。

(8) a. 玻璃上有油，贴不上去。（刘月华 2008:132）

（ガラスの上に油があって、貼り付けられない。）

b.\*玻璃上有油，贴不起来。

本章は、統語環境に応じて目的語となる名詞が活性化すると考え、“～上(去)”の方向義と結果義を中心とし、“～下/～起来”とそれぞれ比較する。具体的には、まず、目的語の特徴や性質によって、移動表現において強調される部分が異なることを問題点として指摘し、“～上/下”とその目的語の意味関係を検証する。次に、“～上去/～起来”の使い分けを明確し、両者が意味上の共通点と相違点を整理する。最後に、方向補語構造“～上(去)”の結果義の意味特徴をまとめる。

#### 4.2. 先行研究

吕叔湘(2019)の学説に基づき、方向補語と共起する目的語の分類のうち、対象物と空間概念の2つ種類がある。対象物を目的語にとる場合、方向補語は動作の結果を示す。一方、目的語は空間概念をとられると、移動事態の移動方向を示す。

##### 4.2.1. “～上”について

吕叔湘(2019)は“～上”が3類の名詞と共起できることを指摘している。

① V+上+[受事，间或有施事名词]。

a) 表示动作有结果，有时兼有合拢的意思。

b) 表示动作开始并继续下去，强调的是开始。

（動作の対象または動作主を表す名詞句(以下Nと記す)と共起する。“～上”は動作の結果、または動作の開始と継続を表す。）



(9) 他们都住上了新房子。(吕叔湘 2019:474)

(彼らはみな新しい家に住めるようになった。)

② V+上+[数量]。表示达到一定的数量。少数形容词也可以有这种用法。

(数量を表す名詞句と共起する。“～上”は一定の数に達したことを表す。

一部の形容詞にもこのような用法がある。)

(10) 走不上半里路就走不动了。(吕叔湘 2019:475)

(半里も行かないうちに歩けなくなった。)

③ V+上+[处所名词]。表示人或事物随动作从低处到高处。有些并非从低处到高处，只表示达到一定目的。

(場所を表す名詞句(以下 L と記す)と共起する。人・事物が動作と共に低い所から高い所へ移動することを表す。また、ある目的に達したことを表す場合もある。)

(11) 雄鹰飞上了蓝天。(吕叔湘 2019:475)

(タカが青空に舞い上がった。)

(12) 有一天瞎老汉又走上那土崖。(史铁生《插队的故事》<sup>1)</sup>)

(ある日じいさんはまた例の崖に登った。)

#### 4.2.2. “～上去”について

複合方向補語構造“～上去”は単純方向補語“上”と“去”の組み合わせであり、空間上の意味は“～上”と一致し、人あるいは事物は低いところか

---

<sup>1)</sup> 《插队的故事》，史铁生，山东文艺出版社，2001。

ら高いところへ移動することを表す。

呂叔湘(2019:476)は“～上去”の派生意味を説明している。

① 表示人员或事物随动作由较低部门(层)到较高部门(层)。

(人あるいは事物は動作の結果、低い部門(層)から高い部門(層)へ行くことを表す。)

(13) 计划已经交上去了。(呂叔湘 2019: 476)

(計画をすでに上部に提出した。)

(14) 一定要把国民经济搞上去。(呂叔湘 2019: 476)

(必ず国民経済を高めなければならない。)

② 表示添加或合拢于某处。

((ある場所に)添加または併せることを表す。)

(15) 螺丝拧上去了。(呂叔湘 2019: 476)

(ねじをしめて取り付けた。)

(16) 你把这棵小树也画上去吧。(呂叔湘 2019: 476)

(この小さな木も描き入れなさい。)

#### 4.2.3. “～下”について

呂叔湘(2019:567-568)は“～下”が3類の名詞と共起できることを指摘している。

① V+下+[受事，间或有施事名词]。

a) 表示人或事物随动作由高处向低处。

b) 表示動作完成兼有脱离的意思。有时兼有使结果固定下来的意思。

(N と共起し、“～下”は人或いは事物が高い所から低い所に向かうこと、及び動作の完成を表す。また、動作の結果を固定する意味を持つこともある。)

(17) 攻下了最后一道难关。(吕叔湘 2019:567)

(最後の難関を攻め落とした。)

(18) 拿不下这个大油田，我们誓不罢休。(吕叔湘 2019:567)

(この大油田を手に入れるまで我々は決して引き下がりません。)

② V+得(不)+下+[数量+名词]。表示能(不能)容纳一定的数量。

(数量を表す名詞句と共起する。“～得(/不)+下”は一定の数量を収容できる(できない)ことを表す。)

(19) 这间大厅坐得下百十来个人。(吕叔湘 2019:567)

(この大広間には約 100 人が座れる。)

③ V+下+[处所名词]。表示人或事物随动作离开高处，到达低处。名词指向高处时，动词 V 和“下”中间可以加“得、不”。处所名词指向低处时，不能加“得、不”。

(L と共起し、人・事物が動作と共に高い所から低い所へ移ることを示す。L がその移動における高い所を指すと、動詞と“下”の間に“得/不”を挿入できる。一方、L がその移動における低い所を指すときは“得/不”を挿入できない。)

(20) a. 走下楼 (吕叔湘 2019:568)

(階段を下りる)

b. 走 {得/不} 下楼

(21) 这些木材月底前运得下山运不下山? (吕叔湘 2019:568)

(これらの材木を月末までに山から運び下ろせますか?)

(22) a. 跳下水 (吕叔湘 2019:568)

(水に飛び込む)

b.\*跳 {得/不} 下水

#### 4.2.4. “～起来”について

さらに、吕叔湘(2019:441-442)は方向補語構造“～起来”の基本義と結果義の用法に関して、以下通りに説明している。

① V+起来+[受事，间或有施事名词]。

a) 表示人或事物随动作由下向上。

b) 表示动作完成，兼有聚拢或达到一定目的、结果的意思。

d) 做插入语或句子前一部分，有估计或着眼于某一方面的意思。

(Nと共起し、“～起来”は人或いは事物が動作によって下から上へ向かうことを表す(例(23))。または、動作の完成を表し、合わせて「集中する」、「目的・結果に達する」意味を表す(例(24))。挿入句或いは文の前部になる場合、「推測」或いは「ある面に着眼すれば」の意味を表す(例(25))。)

(23) 捡起来一块石头。(吕叔湘 2019:441)

(1つの石を拾い上げた。)

(24) 要把开创精神和求实的态度结合起来。(吕叔湘 2019:442)

(創立精神と真実追求の姿勢とを結合させなければならない。)

(25) 这篇文章读起来很耐人寻味。(吕叔湘 2019: 442)

(この文章は読んでとても味わい深い。)

② 形容词+起来。表示一种状态再开始发展，程度在继续加深。形容词多为积极意义的。

(形容詞(以下 A と記す)と共に起し、ある状態が現れ始め、程度が強まりつつあることを表す。A は積極的な意味のものが多い。)

(26) 他的身体正一天天好起来。(吕叔湘 2019:442)

(彼の体はいま日増しに良くなってきている。)

#### 4.3. “～上”と“～下”

##### 4.3.1. 目的語が空間概念を表す場合

陳瑩(2017)では方向補語“上”の後ろに生ずる L は移動の終端として現れると述べた。また、“下”の後ろに生じる L が移動の起点を表せば、“～下”は<離脱+落下>を含意し、「～から落ちる/下りる」という意味を表す。一方、L が移動の到達点を表せば、“～下”は<落下+到達>を含意し、「～に落ちる/下りる」または「～を落とす/下げる」を表すと述べた。

(27) 把钢琴抬上楼去。《中》

(ピアノを二階に運び上げる。)

(28) 快把病人从车上抬下来。《中》

(早く病人を車から下ろしなさい。)

(27)と(28)では、“抬上”と“抬下”の目的語はいずれも場所を表す名詞であるが、それぞれの役割が異なる。(27)において、“楼(階段)”は移動の到達点であるが、(28)において、“车(車)”は移動の起点である。

(29) 跳上车 —— 跳下车

(列車に飛び乗る) (列車から飛び降りる)

(30) 跳上岸 —— 跳下河

(岸に飛び移る) (川に飛び込む)

(29)で、“车”は“跳上”の到達点を示し、“跳下”の起点である。“跳上车”は「地面から離れる」と「列車に接触する」という継起的な動きを含意する。一方、“跳下车”は移動の起点しか表さず、「列車のある所に立脚する」から「列車から飛び降りる」という 2 つの動きを含意する。(30)では、“岸”と“河”は垂直方向上の反対側を示し、それぞれは移動の到達点と見なされるべきである。“～上”は「低位置から離脱する」から「高位置に付着する」までの一連の動作を表し、「下→上」という移動の結果を生じる。(30)の“河”は“跳下”の到達点である。この場合、“跳下河”は「水面より高い所に立脚する」と「高い所から離脱する」という 2 つの動きによって、「上→下」の移動を完成させる。

ここで、“～上”と“～下”が表す移動事象について、以下のように統合する。

表 4-1 “～上”と“～下”の事象把握

“～上”	低位置から離脱 → 高位置に付着
“～下”	高位置に付着 → 高位置から離脱

#### 4.3.2. 目的語が動作の対象を表す場合

##### 4.3.2.1. 空間転移

“～上”と“～下”はNと共起し、結果を表すことができる。文中における両者の振る舞いは似ているが、その動作の構成が逆順になる。“～上”が表わすのは「離脱」してから「付着」という事象である。〈+接触〉が強調されているという特性を示す。一方、“～下”は「付着」から「離脱」という継起的な先後関係を表す。〈+落下〉が強調されている。

(31) 一包胡椒粉都撒上去了。 《中》

(一袋のコショウを全部掛けてしまった。)

(32) 豆子从车上撒下来了。 《中》

(豆が車の上からこぼれ落ちた。)

(31)は、“胡椒粉(コショウ)”が“撒(まぶす)”という動作によって、本来の場所(例えば食卓)から離れ、どこかに付着することを表現し、「離脱→付着」という空間転移を内包している。(32)では、“豆子(豆)”の元位置は車にあり、「車内にある(付着)→車から落ちる(離脱)」という空間転移を表す。さらに、以下の例を考察する。

(33) a. 只要一演好电影，我就画假票。在北大画假票，在科学院，我们连假票都不用画，用大字报纸了。…我们就在墙上拎一小条儿，撕上一个跟那个票的形状差不多的，一叠给那个人就进去了。(CCL:1982年北京话调查资料)

(よい映画が上演されれば、我々は偽物の入場券を作った。北京大学で上演されれば入場券を作るが、科学院の場合は、それすら作る必要も

なく、壁新聞の紙を使った。…私たちは、壁から取った新聞紙を入場券と同じような形に千切って、すこし畳んでから係員に渡し、入場した。)

b. …我们就在墙上拎一小条儿，撕下一个跟那个票的形状差不多的，一叠给那个人就进去了。

(…私たちは、壁から取った新聞紙から、入場券と同じような形に一部を千切って、すこし畳んでから係員に渡し、入場した。)

(33a)と(33b)は、両方とも「入場券と同じような形に新聞紙を切り取る」という結果を表している。しかし、時間軸上における先後関係について、(33a)では「紙が本来の位置から離脱する」と「紙片が手の中にある」が相次いで実現していることと、(33b)では「手が紙と接触する」と「紙を本体から分離する」という動作の構成がわかる。(33a)では、「紙が手に取られた」という動作の終端状態を際立させる一方、(33b)は「新聞紙からの一部が切り取られる」という離脱過程を際立させるという点で異なる。

#### 4.3.2.2. 痕跡形成

“写(書く)・刻(刻む)・插(挿む)・记(記入する)・画(描く)・划((線などを)引く)”などの動詞は、本来であれば空間上の移動を表わさないが、“～上/下”と共起する場合には、抽象的な転移を意味することになる。

(34) 写上名字 —— 写下名字 (名前を書く)

刻上花纹 —— 刻下花纹 (模様を刻印する)

插上标杆 —— 插下标杆 (測量ポールを立てる)

记上日期 —— 记下日期 (日付を入れる)

画上记号 —— 画下记号 (マークを付ける)



划上分界线 —— 划下分界线（境界線を引く）

(34)で、Vが表わすのはいずれも痕跡を残す動作である。動作によってNが記録媒体に実態化することを表わしている。このような過程において、“～上”と“～下”が強調する側面はそれぞれ異なる。“～上”は<+接触>の意味特徴を持ち、「動作によってある場所に付着する」ということに関心の焦点が置かれる。一方、“～下”は<+落下>であり、「動作によって共に痕跡を留める」を表現し、「痕跡を留める」という結果が前景化されていると考えられる。

(35) a. 纸太光滑了，写不上字。 《白》<sup>2)</sup>

（紙がつるつるで字が書けない。）

b.\*纸太光滑了，写不下字。

(35)では、記録媒体の性質のために、筆記用具の痕跡が記録媒体に付着できないことを表現している。この場合、「痕跡を留めるかどうか」という結果の部分が背景化され、“～下”と共起することは、不適格である。

(36) a. 在这一版上还有一块空白，但已经再画不下一幅插图了。

（この紙面にはまだ余白があるけど、絵を1つ埋めることもできないぐらいだ。）

b.\*在这一版上还有一块空白，但已经再画不上一幅插图了。

ここの例では、「絵」という情報が「描き手」（動作主）という動作の始発端から離れないという段階が前景化され、「絵を描く」という事象自体が遂行不可

---

<sup>2)</sup> 『白水社 中国語辞典』，伊地智善継編，白水社，2002。本研究では略称して《白》と記す。

能であることを表現する。記録媒体との付着を問題にされていないため、“～上”が用いられない。

(37) a. 抄下这首诗，然后永远记在心里吧。

(この詩を写して、そして心の中に覚えておきなさい。)

b.\*抄上这首诗，然后永远记在心里吧。

(37)では、記録媒体と接触し、痕跡として残るかどうかに関心の焦点となっていない、もともと書かれていた“詩”という情報が離れることに焦点があるため、“～下”が用いられるのである。

#### 4.3.2.3. 獲得行為

“上/下”は“吃(食べる)/喝(飲む)”のような「咽下」を表わすVと共起する場合、両方とも「飲食より獲得行為」ことを表現する。この場合において、“～上”は<+接触>の意味特徴を持つので、「動作によって対象物に到達する」ことを表す。“～下”は食べ物の軌跡が前景化された「方向義」で解釈される(丸尾 2014:36)。

(38) a. 今天早上因为没时间没能吃上早饭。 《W》<sup>3)</sup>

(今朝は時間がなくて朝ごはんを食べられなかった。)

b.\*今天早上因为没时间没能吃下早饭。

(39) a. 他们肚子很饱吃不下蛋糕了。 《W》

(彼らはお腹がいっぱいでケーキが食べられませんでした。)

b.\*他们肚子很饱吃不上蛋糕了。

---

<sup>3)</sup> 「Weblio 中国語例文検索(<https://cjjc.weblio.jp/sentence/>)」は、現代中国語の定型句、慣用表現、日常会話などの文例とそれらに対する日本語収録する例文検索エンジンである。本研究では略称して《W》と記す。

(38)では、客観的な理由「時間がない」で、「食べられなかった」という結果を引き起こす。「食べ物を触ることさえできない」という状況がイメージされている。(39)が表す結果は(38)と類似しているが、その理由は個人的で、「お腹がいっぱいで、ケーキでも食べたくない」からである。(38)と(39)のような例において、“～上”と“～下”はお互いに置き換えられない。同じ「獲得する」を表現するが、“～上”は「客観的な条件」を強調する一方、“～下”は「主観的な意欲」を表現するからである。

なお、飲食行為を基盤とし、“～上”と“～下”はさらに「所有関係の獲得する」を表すことができる。(40)と(41)のように、“上/下”は「収得」を表すVと共起するとき、一見類似した意味を持つようであるが、実際のところ、それらのニュアンスは異なっている。“～上”は「動作が対象物に到達すること」に焦点となる。“～下”は具体的な落下移動に基づいてメタファーされ、「対象物が本来の場所(あるいは所属関係)を離れる」ことに展開する。

(40) a. 现在家家都买上电视机了。 《白》

(今ではどの家でもテレビを買うようになった。)

b. 在大甩卖的时候买下那个就好了。 《W》

(セールの時にそのテレビを買っていればよかった。)

(41) a. 打了三天电话也没订上园子的票。(CCL:郭德纲《郭德纲相声集》)

(三日も電話をかけたが、劇場チケットの予約が取れなかった。)

b. 刘先生如愿地订下了一张机票。(CCL:1996年《人民日报》)

(劉さんは希望通りに航空券の予約を取った。)

(40)と(41)では、「テレビ」や「チケット」は本来の場所を動かず、動作主の動作がそこに到達したことを表す。一方、(40)と(41)では、対象物と本来の

所有関係から離脱し、動作主のもとに引き寄せたことを表す。

また、“～上”は対象に対して積極的に行動するというイメージが生じられ、「目的、願望に達する」という意味を派生させる。

(42) a. 我四十岁才娶上老婆。 《白》

(私は 40 才になって、やっと女房をもらった。)

b. 这牛郎就承担责任，娶下织女，在家里看孩子。(CCL:韩寒《就这么飘来飘去》<sup>4)</sup>)

(この牛飼いは責任を取って、織女を嫁にし、家で子供の面倒を見た。)

(42)での“娶上老婆(女房をもらう)”は、長い間に活動してようやく達成する願望であり、動作主の意志性や客観的条件の備えることが想定される。しかしながら、(42)では、「牛飼い」がやむをえざる状況下で「織女」を嫁にすることを表現し、「願望実現」という意味成分を弱化する。抽象的な獲得行為において、“～上”が「客観的な条件」を強調する一方、“～下”が「主観的な意欲」を表現するという特性は、前頭で述べた飲食より獲得行為((38)(39))と一致している。

#### 4.4. “～上去”と“～起来”

さて、本節では、先行研究を踏まえて、まず“V起来”と“V上去”が表す空間移転について比較し、それぞれの意味特徴を明らかにする。次に、形容詞と共起した場合の、“A起来”と“A上去”の使い分けを考察し、意味上の共通点と相違点を整理する。最後に、“V起来 AP<sup>5)</sup>”と“V上去 AP”が置き換えられる要因について分析する。

---

<sup>4)</sup> 《就这么飘来飘去》，韩寒，接力出版社，2005。

<sup>5)</sup> 本研究では、形容詞句を AP と記す。

#### 4.4.1. 「空間移転」を表す“V 上去”と“V 起来”

“～起来”と“～上去”はいずれも低いところから高いところへの移動を表すが、刘月华(2008:345-346)では“V 上去”と“V 起来”の方向義について比較を行い、いくつかの区別を指摘している。

- ① “上去”表示指向终点的位移，“起来”表示无指向的位移。因此，“起来”后不能出现表示位移终点的处所词，“上去”则可以。

(“V 上去”は到達点へ向かう移動を表すのに対し、“V 起来”は無指向の移動を表す。したがって、移動の到着点は、“V 起来”の後に現れないのに対し、“V 上去”の後に現れる。)

- (43) a. 他跳上台去了。(刘月华 2008:345)

(彼は台に跳び乗った。)

- b. 他跳起来了。(刘月华 2008:345)

(彼は飛び上がった。)

因此，如果只表示由低到高的位移，动作没有终点或致不出终点时，只能用“起来”。如“他气得跳了起来”，“他很快地站了起来”，“他从地上爬起来”，“他把手举了起来”等。

(したがって、低いところから高いところへの移動を表すとき、動作の到達点がない、または動作が到達点を指し示すことができないのであれば、“V 起来”のみを用いる。例えば、“他气得跳了起来(彼は怒って跳び上がった)”、“他很快地站了起来(彼はすぐ立ち上がった)”、“他从地上爬起来(彼は地面から這い上がった)”、“他把手举了起来(彼は手を挙げた)”など。)

② 用“起来”时，立足点是不确定的，而用“上去”时，立足点在低处。

（“V 起来”を用いる場合、立脚点は明確でないが、“V 上去”の立脚点は低いところにある。）

③ 位移过程中有所凭借，即不是悬空的移动时，应该用“上去”，如：

（移動過程に経路があり、宙に浮いたような移動ではない場合、“V 上去”を使う。）

(44) 他上楼去了。（階段に頼る）（刘月华 2008:345）

（彼は上へ上がっていった。）

(45) 小孩爬上树去了。（樹幹に頼る）（刘月华 2008:346）

（子供は木に登っていった。）

④ “上去”有趋向意义，即表示趋近眼前的目标，“起来”没有这个用法。

（“V 上去”は方向義があり、目の前の目標に近づくことを表す。“V 起来”にはこのような使い方がない。）

しかしながら、「低→高」の移動を表す場合にも、両者が置き換えられない例もあるが、刘月华(2008)にそれを言及していない。

まずは前項動詞が移動動詞である例文を観察する。

(46) a. 不是每一个人都有勇气站上去的。

（すべての人に立ち上がる勇気があったわけではない。）

b. 不是每一个人都有勇气站起来的。

（すべての人に立ち上がる勇気があったわけではない。）

(47) a. 我从座位上站起来。(CCL:戴厚英《人啊，人！》<sup>6)</sup>)

(私は席から立ってきた。)

b. ? 我从座位上站上去。

(46)と(47)は、移動動詞の“站(立つ)”が方向補語と共起し、空間移転を表すことができる。そのうち、(46)は刘月华(2008)の指摘と異なり、到達点が指し示されていないのに関わらず、“上去”と共起し、高いところへの移動を表す。また、(47)は前置詞“从(～から)”によって、動作の立脚点が明確のだが、“站起来(立ち上がる)”を用いる。ここから、“V 起来”と“V 上去”が表す空間転移において、更なる研究の必要があると考えられる。そこで、(48)と(49)を付け加える。

(48) a. 迎面走上去和他握手。 《白》

(まっすぐに歩み寄って彼と握手する。)

b. ? 迎面走起来和他握手。

(49) a. 她找了一处突出地面的树根，疲惫地坐上去。(CCL:黄朱碧《板凳姑娘》<sup>7)</sup>)

(地面から突き出た 1 本の木の根を見つけて、彼女は疲れて座った。)

b. ? 她找了一处突出地面的树根，疲惫地坐起来。

(彼女は地面から突き出た 1 本の木の根を見つけて、彼女は疲れて坐りはじめた。)

(46)と(47)の前項動詞は、いずれも方向性を持たない移動動詞であり、“起来”“上去”とそれぞれ共起する。「下→上」の移動を表わさない(48a)と(49a)は、

---

<sup>6)</sup> 《人啊，人！》，戴厚英，人民文学出版社，2007。

<sup>7)</sup> 《板凳姑娘》，黄朱碧，网络小说，2006。

“～上去”を用いることによって、「接触」の要素を含意する。ここから、“～上去”は<+接触>の意味特徴を持つことで、4.3で分析した“～上”の特性と共通していることが見られる。一方、“起来”を用いる(48b)と(49b)は、高低間の移動が含意せず、“走起来”と“坐起来”は時間領域上で「～しはじめる」ことを表すと理解される。

さらに、方向性を持つ前項動詞と共起する例を挙げる。

(50) a. 谁有问题请把手举起来。(刘月华 1991:469)

(質問のある人は手を挙げてください。)

b.\*谁有问题请把手举上去。

前項動詞“举(挙げる)”は「下→上」の方向性を内包しているが、(50a)は到達点が見えておらず、<+接触>を含意しないため、“V上去”を用いない。ここで、“V上去”の結果義は「接触、付着して固定する」というイメージを持ち、「到達」の意味が強く、明確な到達点を観察される。次に、非移動動詞と共起する例を分析する。

(51) a. 硬盘一旦安装上去就能使用的。

(ハードディスクが取り付けられたら、(パソコンが)すぐに使える。)

b. 硬盘一旦安装起来就能使用的。

(ハードディスクが組み立てられたら、すぐに使える。)

(52) a. 他没老婆，那些布袋都是他自己粗针大麻线缝上去的。(CCL:李佩甫  
《羊的门》<sup>8)</sup>)

(彼は嫁がない。あれらの布袋は全て彼自身が粗い針と麻糸で縫い付けたものだ。)

---

<sup>8)</sup> 《羊的门》，李佩甫，华夏出版社，1999。



- b. 他没老婆，那些布袋都是他自己粗针大麻线缝起来的。

(彼は嫁がいない。あれらの布袋は全て彼自身が粗い針と麻糸で縫ったものであった。)

(51)と(52)は“V 上去”と“V 起来”いずれも共起する。(51a)は“硬盘(ハードディスク)”を“电脑(パソコン)”の中に挿入することを表し、動作の終端は「パソコン」と認識される。(51b)の到達点が認識されないため、パソコンに挿入させることでなく、それぞれのハードディスク部品を組み立てることを表している。また、(52a)は「布袋」がどこかに縫い付けられたことを表すのに対し、(52b)は「布袋」が「粗い針と麻糸」で縫ったものであることを表す。ここで、“V 上去”は動作を通じて、事物の一部分、あるいは副次的な事物が、全体または主要な事物と接触、付着することを表し、“V 起来”は動作を通じて、2つの事物がつながること、あるいは合併することを表すことと考えられる。

#### 4.4.2. 「状態変化」を表す“A 上去”と“A 起来”

本節は、“A 上去”と“A 起来”を用いた例文において、“～上去”を“～起来”が表す結果義を分析する。

- (53) a. 那小山一级一级地高上去，就像是给他们砌出来的土台阶。（CCL:张爱玲《秧歌》<sup>9)</sup>）

(あの小山は1段ずつ高くなっている。彼らのために築いてくる石段のようである。)

- b. 那小山一级一级地高起来，就像是给他们砌出来的土台阶。

---

<sup>9)</sup> 《羊的门》，张爱玲，皇冠出版社，1968。

(あの小山は 1 段ずつ高くなってくる。彼らのために築いてくる石段のようである。)

(54) a. 说不定知名度就好上去了。(新浪微博)

(知名度が上がっていくかもしれない。)

b. 说不定知名度就好起来了。

(知名度が上がってくるかもしれない。)

(53)と(54)では、“高(高い)”と“好(よい)”はいずれも形容詞であり、“～上去”、“～起来”両者とも共起できる。“A 上去”の場合、ある状態または程度に達することを表し、人または事物の状態が次第に変わっていることを表す。往々にして、人または事物の状態が低い状態から高い状態へ上がることを、またはよくない状態からよい状態になっていくことを強調し、積極的なニュアンスを持つ。また、“A 起来”と共起する場合、人あるいは事物が一つの新しい状態に入ることを表し、は新しい状態の開始点を強調する。

#### 4.4.3. 「評価や推測」を表す“V 上去 AP”と“V 起来 AP”

(55) 那个桃子摸{上去/起来}软软的。(曹宏 2004:39)

(あのモモはやわらかい。)

(56) 臭豆腐闻{上去/起来}臭，吃{上去/起来}香。(朱繼征 2004:130)

(臭豆腐は臭いが食べてみれば美味しい。)

(55)と(56)が示すように、“V 上去 AP”と“V 起来 AP”は、話し手が事物のある面に着目し、事物に対して見積もりや評価を行うという用法がある。本節では“V 上去 AP”と“V 起来 AP”の意味分析と使い分けについて考察する。

前節で論じたように、“V 上去”の結果義は「接触、付着して固定する」というイメージを持ち、部分的・副次的な事物が、全体または主要な事物へ「到達」の意味が強く、明確な到達点を観察される。これらの意味的特徴が、“V 上去 AP”の構造にも見られている。

- (57) a. 这样做的主要原因是国家队队员年龄较大，结婚的较多，住处比较分散，管理起来有困难。（CCL:新华社 2001 年 10 月份新闻报道）

（このようにする主な原因は国家チームの隊員たちが年を取って、結婚した人が多く、住所も分散しているため、管理しにくいからである。）

- b. \*这样做的主要原因是国家队队员年龄较大，结婚的较多，住处比较分散，管理上去有困难。

- (58) a. 家庭爱情小说写起来是有一定难度的。（CCL: 辽宁人民出版社《当代世界文学名著鉴赏词典》）

（家庭愛情小説を書くのはある程度の困難を伴う。）

- b. \*家庭爱情小说写上去是有一定难度的。

- (59) a. 另外，还有一些特殊语法结构，分析起来也很费推敲。（CCL:语言学论文）

（また、一部の特殊な文法構造があるため、分析に熟考を重ねる。）

- b. \*另外，还有一些特殊语法结构，分析上去也很费推敲。

(57a) (58a) (59a) の前項動詞は、いずれも抽象的な動作を表し、具体的な接触や到達点は想定にくいため、“～上去”と共起しない。

なお、事物のある面に着目し、事物に対して評価、または推測を行うとき、“看上去 AP”と“看起来 AP”がよく用いられる。

- (60) a. 从外面看上去，这个房子很大。

(外から見ると、この家は大きく見える。)

- b. 从外面看起来，这个房子很大。

(外から見ると、この家は大きく見える。)

- (61) a. 我觉得你看上去特别像个老板。

(見たところ本当に社長さんに見える。)

- b. 我觉得你看起来特别像个老板。(CCL:凤凰卫视出版中心《鲁豫有约 沉浮》<sup>10)</sup>)

(見たところ本当に社長さんに見える。)

(60)と(61)はいずれも事物の外部から「推測」或いは「評価」を行うことと表している。この場合、“看起来”と“看上去”は両者とも用いられる。しかしながら、以下の例では、“看起来”しか用いられない。

- (62) a. 它里面看起来真够黑！(CCL:安徒生《安徒生童话故事集》<sup>11)</sup>)

(その中は本当に暗く見える！)

- b. \*它里面看上去真够黑！

- (63) a. 从书上看起来，这种药是很好的，人吃了能转弱为强。(CCL:鲁迅《魏晋风度及文章与药及酒之关系》<sup>12)</sup>)

(本によるとこの薬はよい，人が飲んだら強くなる。)

- b. \*从书上看上去，这种药是很好的，人吃了能转弱为强。

(62a)と(63a)の共通点は事物の内部視点において、「推測」或いは「評価」を表している。一般的に、一定の距離を置いて人や物体の外部から観察すること

---

<sup>10)</sup> 《鲁豫有约 沉浮》，凤凰卫视出版中心，中国友谊出版社，2008。

<sup>11)</sup> 《安徒生童话故事集》，安徒生(叶君健译)，人民文学出版社，1997。

<sup>12)</sup> 《魏晋风度及文章与药及酒之关系》，鲁迅《而已集》，人民文学出版社，1973。

とを含意する場合、“看上去 AP”と“看起来 AP”は両方とも用いられるが、(62b)と(63b)のように、事物の内部から観察する場合、“看上去 AP”を用いない。“看起来 AP”はこの点において明確な制限がない。

さらに、時間詞を加えた例を加える。

(64) a. 那理由现在看起来是不成立的。

(その理由を現在から見ると成立しない。)

b. \*那理由现在看上去是不成立的。

(65) a. 这首诗今天看起来更不押韵，事实上在中古时期也是押韵的。(CCL: CWAC<sup>13)</sup>)

(この詩は現在から見れば韻を踏んでいないように見えるが、実は中古時代においては韻を踏んでいた。)

b. \*这首诗今天看上去更不押韵，事实上在中古时期也是押韵的。

(64a)と(65a)はいずれも、過去の事物に対する評価(推測)であり、“看起来”としか共起できない。一方、現在の事物に評価や推測を行う場合、“看上去”は適用ようになる。

(66) 尽管伊朗目前看上去没有任何核武器，但它正迅速接近拥有核武器的那一天。(CCL:新华社 2003 年 6 月份新闻报道)

(確かに今イランは何の核兵器も持っていないように見えるが、核兵器を持つ日が急速に近づいている。)

#### 4.5. まとめ

本章では、目的語となる名詞の意味役割に基づいて、まず、“～上”と“～

---

<sup>13)</sup> CWAC:《中文学术文献语料库》

下”の意味特徴を考察した。考察の結果を整理すると、次のように示される。

第一に、“～上”と“～下”が場所を表す名詞 L と共起する場合を考察した。方向補語“上”の後ろに、L が移動の到達点として現れる。“～上”は「低位置から離脱する」から「高位置に付着する」までの動作統合することによって、「下→上」という移動の結果を生じる。“下”の場合、L が動作の起点となれば、“～下”は<離脱+落下>を表し、「高位置に立脚する」と「高位置から離脱する」という 2 つの継起的な動きを含意する。動作の到達点となれば、“～下”は「高位置に立脚する」と「高位置から離脱する」、最後に「低位置に到達する」という 3 つの動きによって、「上→下」の移動を完成させることが明らかになった。

第二に、“～上”と“～下”が動作の対象を表す名詞 N と共起する場合を考察した。空間転位を表す場合、“～上”と“～下”の意味は時に近いが、“～上”は動作の終端に焦点を当て、“～下”は焦点を当てる部分が動作の始発端である。

また、“上+N”と共起できる V は<+付着>、<+接触>の意味を内包している。

“下”と共起できる V は<+離脱>、<+落下>という意味特徴を有する。痕跡形成を表現する場合、“～上”と“～下”は類似した意味を表すが、それぞれ強調される部分が異なる。“～上”は「動作によってある場所に付着する」ということに関心の焦点が置かれ、“～下”は「動作によって共に痕跡を留める」を表現し、「痕跡を留める」という結果が前景化されていると考えられる。「獲得する」を表現する場合、“～上”は「客観的な条件」を強調し、「動作が対象物に到達する」ことに焦点となる。“～下”は体的な落下移動に基づいてメタファーされ、「対象物が本来の場所(あるいは所属関係)を離れる」ことに展開する。

さらに、本章は“～上去”と“～起来”において、比較研究を行った。その結果は以下のように示される。

第一に、「空間移転」を表す“V 上去”と“V 起来”について考察した。動作の到達点が明確で、何かを頼りに移動する場合、“V 上去”を用い、「下→上」の移動を表す。何かを頼りとせず、動作の起点が明確的だが、動作の到達点が表示されていない場合、“V 起来”のみを使用し、「低→高」の移動を表す。両者が「結果」を表す場合において、“V 上去”は動作を通じて、事物の一部分あるいは副次的な事物と全体または主要な物体と接触、付着することを表すことに對し、“V 起来”は動作を通じて、2つの事物がつながることあるいは合併することを表す。

第二に、「状態変化」を表す“A 上去”と“A 起来”について考察した。“A 上去”の場合、ある状態または程度に達することを表す。往々にして、人または事物の状態が低い状態から高い状態へ上がること、またはよくない状態からよい状態になっていくことを強調し、積極的なニュアンスを持つ。また、“A 起来”は、人あるいは事物が新たな状態に入ることを表し、新状態の開始点を強調する。

第三に、「評価や推測」を表す“V 上去 AP”と“V 起来 AP”について考察した。一定の距離を置いて、外部視点から観察する場合、“V 上去 AP”と“V 起来 AP”は両方とも用いられるが、事物の内部視点から観察する場合、“V 起来 AP”のみを用いる。また、“V 上去 AP”は過去の事物に対する評価や推測を行う場合に用いないが、現在の事物に適用する。

## 第5章

# 方向補語の各意味間の関連性について

— “～过”を中心に —



### 5.1. はじめに

動詞“过”の基本義は「通過」である。補語として用いる“～过”を解釈するために、「通過点」を表す表現がしばしば用いられる。次の(1)がその典型例である。

- (1) 走过天安门广场。(吕叔湘 2019:246)

(歩いて天安門広場を通り過ぎる。)

(1)では通過域が空間となっているため、“天安门广场(天安門広場)”は「通過点」として捉えることができる。しかし、そのような位置に「通過点」以外の名詞が入る場合もある。

- (2) 小罗不慌不忙，侧身躲过尖刀，猛地飞起右腿，一脚踢在歹徒的手腕上。

(CCL:1994 年报刊精选)

(羅さんは慌てず身をかかわして、あのナイフをよけた。そして右足をぱっと上げて、悪漢の腕を蹴った。)

- (3) 我接过奖状走下台去。(吕叔湘 2019:245)

(私は賞状を受取って台の下へ降りた。)

- (4) 窗外闪过一个人影。《白》<sup>1)</sup>

(窓の外を1つの人影がさっと通り過ぎた。)

(2)の“躲过(よけた)”とは、衝突しないように動いていくことである。“那一刀(あのナイフ)”をよけたと理解されるが、これを「通過点」と考えるの

---

<sup>1)</sup> 『白水社 中国語辞典』，伊地智善継編，白水社，2002。本研究では略称して《白》と記す。

は不適切である。また、(3)の“接过(受け取った)”が他動詞であり、“奖状(賞状)”は動作の対象であって、動作の移動経路に具体的な通過の対象を捉えることができない。(4)は「出現」を表し、「窓の外」が移動事象の行われた場所としか理解されない。

呂叔湘(2019)では、“～过”の用法を、「通過」を表す方向補語と、「完了」・「経験」を表すアスペクト助詞の2つに分けている。また、刘月华(2008)は、方向補語は方向義、結果義、状態義を表すことができると指摘している。本研究は、方向補語構造“～过”の基本性質は「通過」を表すことであり、そこから動作の「完了」や「経験」を表す結果義が派生するという観点に従い、方向義か、それとも結果義かのように切り分けることはせず、“～过”が表す各意味機能の間での関連性を考察したい。

一方、動作・作用の完了を表す形式として、“～过”と“～完”に関する研究はこれまで多く行われている。朱繼征(2000)は、“～完”は、実行され始めた動作が「線」状過程を経て、完了点に達したという意味を表すと指摘している。時間的幅を持つ線状過程を表すことで、“～完”は「開始点→終了点」のような「移動」のイメージを読み込まれている。したがって、“～完”は統語上、結果補語とされているが、時間領域での「移動」という面において、方向補語としての“～过”と並行的な意味特徴を持つことが考えられる。そこで、本研究は“～过”と“～完”を比較し、両者の使い分けをさらに掘り下げ、分析する。

## 5.2. 先行研究

### 5.2.1. “～过”の意味について

方向補語“过”が「空間移動」を表す場合、通常、その意味は次のように説明される。(呂叔湘 2019:245-246; 刘月华 2008:269-272)

- A. ある場所を通り過ぎる。
- B. ある場所から別の場所へ移る。
- C. 物体が動作によって方向を変える。

次の(5)から(7)は、上記3つの意味にそれぞれ対応する。

(5) 队伍穿过操场，向教室楼走去。⇒【A】（刘月华等 1991:464）

（学生たちの隊列はグラウンドをつきつて、教室棟へ向かって歩いて行った。）

(6) 他递过一块热毛巾给我。⇒【B】（吕叔湘 2019:245）

（彼は熱いタオルを渡してくれた。）

(7) 他回过头看见了我。⇒【C】（吕叔湘 2019:246）

（彼は振り向いて私を見た。）

丸尾(2014:106)によれば、「移動」のイメージ・スキーマは図式化できる(図5-1)。さらに、“过”の表す移動義を図式化すると、図5-2(I)と図5-2(II)では「その経路が強調される」一方、図5-2(III)では「起点と到達点が強く意識される」と指摘する。(点線はその部分が「背景化」していることを示す。)

図 5-1. 「移動」のイメージ・スキーマ

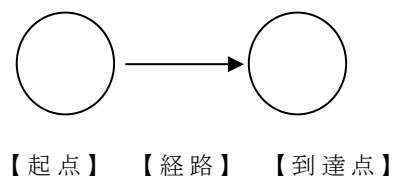
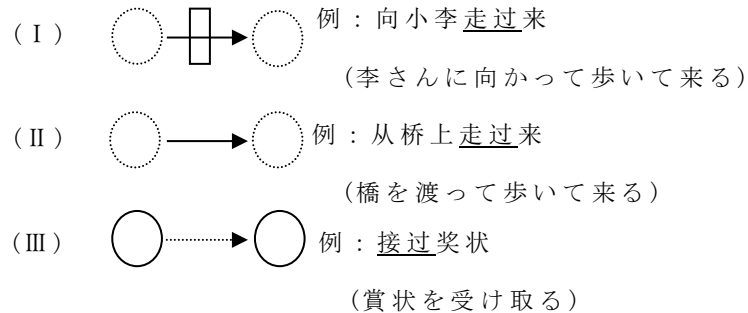


図 5-2. “过” が表す移動



(丸尾 2014:106)

### 5.2.2. “～过” と共起する N

高橋(2013)は、「“V 过” +L」の組み合わせで作る連語を文法的なふるまいによって分類する。そのうち、連語論的な意味と構造的なタイプによって、プロトタイプである「空間的な通過を表すむすびつき」とそのバリエーションである「空間に向かうことを表すむすびつき」を作ることができるとする。

「空間的な通過を表すむすびつき」の場合、“～过” と共起する名詞は主体が通過する空間((7)(8))、あるいはその通過ルートの前左右上下((9)(10))を表す。

(8) 他从容地涉过小溪…… (高橋 2013:98)

(彼は落ち着き払って小川を渡った…)

(9) 爸爸背着孩子越过大山去叔叔家了。(高橋 2013:101)

(父は子供を背負って大きな山を越え、おじさんの家に行った。)

(10) 趁着夜色，跳过围墙去。(高橋 2013:98)

(夜陰にまぎれて、塀を飛び越えて行った。)

(11) 走过银行就是照相馆。(高橋 2013:98)

(銀行を過ぎれば、写真屋さんです。)

一方、方向義を意味する“来/去”と組み合わせると、“～过”は基本義「スギル」から派生義「ムカウ」へ変化し、「ある方向や場所へムカウ」という意味を表す。この場合、Lは動作主の「ムカウ先」を意味する。

(12) 他正在迟疑间，蕙慢慢地走过这边来了。（高橋 2013:107）

（彼が躊躇している間に、ケイはゆっくりとこちらに向いて歩いてきた。）

(13) 人们在早晨乘船渡过那边去……耕耘他们远处的田。（高橋 2013:107）

（朝、人々は船に乗って向こう岸へ渡り……遠くの田を耕しに行く。）

さて、高橋(2013)の主張と異なり、中根(2008)は“～过”を「ある空間領域を過ぎる動き」を表すと定義する。つまり、「方向」は空間領域を参照して確定されるところなのである。したがって、参照となる空間領域は、各方向動詞の表す意味により条件が規定されている。“～过”の方向を定める参照とするのは「少なくとも二辺の境界をもつ空間領域」である。また、「参照領域」は非個体であり、具体的な場所ではないと指摘する。

また、杉村(2009)は「ある空間を過ぎる動き」という定義では、方向補語である“～过”のもつ方向性を表現できていないと指摘する。そこで、「二つの対立空間を結ぶ関係<sup>2)</sup>」から方向を得るという視点から考え、“～过”の表す移動を「こちら」と「あちら」における転移とみなす。つまり、“～过”が表すのは「「こちら」と「あちら」を仕切る境界」を越える動きと捉える、これにより“过”の持つ方向性が示されるところ。それにしたがって、“～过”が「境界を通過する」ことを表すと主張する。

### 5.2.3. “～过”と“～完”の意味的共通点

今までの先行研究によると、“～过”と“～完”はともに動詞に後接し、

---

<sup>2)</sup> 杉村 1983 : 33 の用語である。

動作の完了を表すことができる(朱德熙 1982)。例えば

(14) a. 我吃完饭，我们去散步。

(食事が終わったら散歩に行こう。)

b. 我吃过饭，我们去散步。

(ご飯を食べたら散歩に行こう。)

朱繼征(2000:61)は“～过”と“～完”の使い分けについて、次のように指摘している。

“～完”は、線状過程のある動作の完了を表し、“～过”は、独立した出来事としての動作の完了を表す。よって、その動作の線状過程を表す要素のある文、或いは脈絡の中では、“～完”しか使うことができない。動作を独立した出来事と見なす文、或いは脈絡の中では、“～过”しか使えない。その動作の起動・進行・完了という線状過程を示す要素もなく、独立した出来事を示す要素もない文、或いは脈絡におけるのみ、“～完”と“～过”を置き換えることができるのである。

また、刘月华(2008:278)、吕叔湘(2019:247)では、動作性の弱い動詞は動作の完了を表す“～过”をともしないといっている。例えば、非動作動詞(“是(である)”“成为(なる)”など)、心理状態や態度を表す動詞(“害怕(怖がる)”“担心(心配する)”“赞成(賛成する)”“尊敬(尊敬する)”など)、認知動詞(“认识(認識する)”“懂(分かる)”など)、能願動詞(“能(できる)”“要(しようとする)”など)、一つの具体的な動作を表さない動詞“教学(伝授する)”“侵略(侵略する)”など、非自主動作動詞(“咳嗽(せきをする)”“漏(漏れる)”など)。

### 5.3. 問題点

これまでの先行研究は、“～过”と共起する N の性質を統一的に説明していない。一方、“过”は「方向動詞」として、他の“上、下、進、出、回”と完全に範列的な関係にあることは否定できないが、その移動方向が見出しづらいことがわかる。

また、“～过”と“～完”の意味的相違や共起する動詞、使い分けについて、様々な考察がなされてきたが、両者の特徴や意味的相違の比較にはまだ研究の余地があると考ええる。特に時間詞との共起状況や、時間的幅が見てとれるのかどうかについての分析がまだ不十分であり、動作の内部時間に焦点をおく考察もなされていない。

そこで本章は、以上の問題点について検討し、まず“过”の「方向性」を検討する。次に様態描写、否定副詞や時間詞という側面から“～过”と“～完”を比較し、それらが内包している意味要素を掘り下げる。

### 5.4. 分析

#### 5.4.1. “～过”が表す「移動」

杉村(2009)は「ある空間を過ぎる動き」という定義では、方向補語である“～过”のもつ方向性を表現できていないと指摘する。そこで、「二つの対立空間を結ぶ関係」から方向を得るという視点から考え、“～过”の表す移動を「こちら」と「あちら」における転移とみなす。つまり、“～过”が表すのは「『こちら』と『あちら』を仕切る境界」を越える動きと捉え、これにより“过”の持つ方向性が示されたとする。言い換えれば、“过”が「境界を通過する」ことを表すと主張する。

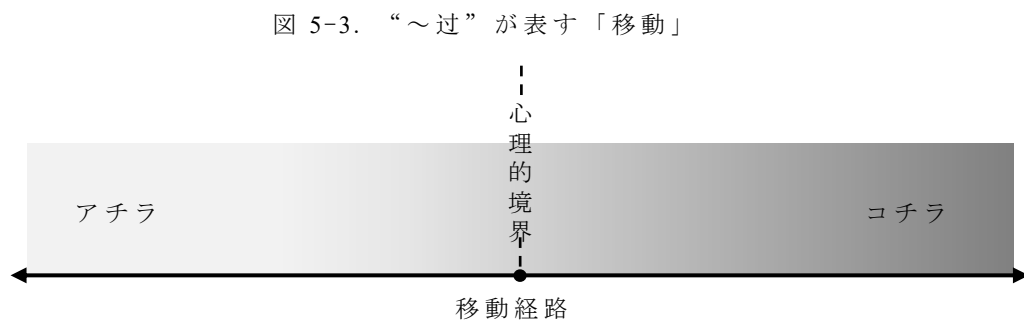
それに基づき、陳瑩(2017)は、「コチラ」と「アチラ」を分ける心理的な境界線が、「移動経路」と交わり、交差点が形成されると述べている。“～过”

が表す移動事象は、そのような「点」を通過し、一方側から他方側へ移るということである。例として、

(15) 燕子由城市上空飞过。(丸尾 2014:109)

(ツバメが街の上空を飛んでいく。)

(15)において、“～过”が具体的になにを通過したのかは把握しにくい。ここで、「街の上空」を移動の経路とし、移動の主体「燕」がその経路で、「アチラ→コチラ」(または「コチラ→アチラ」)の移動を行ったと理解されれば、以下の図式を得る。



#### 5.4.2. “～过” が表す「完了」

本節は、移動事象に対する考察から得た結論をもとに、「完了」を表す“～过”と“～完”の比較を行い、両者の使い分けを制約する要因、及び意味的相違を明らかにしたい。

以下(16)と(17)の間で異なるのは“看了一整晚(一晚掛けて)”という時間を示す修飾成分の有無である。

(16) a. 这本书我看完了，但没看懂。

(この本を読み終えたが、理解できなかった。)



b. 这本书我看过了，但没看懂。

(この本を読んだが、理解できなかった。)

(17) a. 这本书我看了一整晚，看完了，但没看懂。

(私は一晩かけてこの本を読み終えたが、理解できなかった。)

b.\*这本书我看了一整晚，看过了，但没看懂。

(16a)の“看完(読み終えた)”は「私が読んだ」と「本を完読した」という2つの意味要素を含んでいる。(16b)の“看过”は本を完読したかどうかということの問題にせず、「読むという動作が完了した」ことのみを表す。つまり、“～完”が、動作主の視点における「動作の完了」を表すとともに、動作対象の視点で「尽くす」という状態に到達したことを表す機能も有するのに対し、“～过”は動作対象の側が無くなったか(尽くすされたか)どうかに関与しない。また、(17a)では、動作主の“我(私)”が読むという動作を“一整晚(一晩)”持続することで、本を最初から最後のページまで全書読み終えたことを表現している。ここで用いられる“～完”は、その動作の開始から終了までの過程を強調し、動作持続による結果の達成という「持続過程」に注目している。一方、(17b)の“～过”は、動作の持続時間に焦点をおかず、“一整晚(一晩)”という外部的持続時間を示す表記と共起すると、非文になる。

以上の考察に基づき、本研究は“～完”と“～过”の意味や使い分けについて、以下のように考える。

“～过”の時間的用法は、『コチラ』と『アチラ』の境界線を通過する」という基本的な意味と同じイメージを共有することで、空間領域と関連づけられている。それは、「あの時」と「この時」を仕切る心理的境界線を生じるという類似点が捉えられ、過去で完了したことが、「あの時→この時」のかたちで現在とつながっている。つまり、“～过”が用いられる事象は、時間領域において、心理的境界線を通過し、「この時」に対応する「あの時」に位置付

けられる。出来事の様態や持続などに関わらず、“～过”は、動作の開始から完了までの全過程を時間軸上過去にある1点に圧縮し、動作の内部時間に注目しない(図 5-4)。したがって、刘月华(2008)・吕叔湘(2019)が言及した「動作性の弱い動詞」は内部的に時間の幅を持つため、“～过”と共起できない。一方、“～完”は、時間軸においてある期間内で動作を行い、基準時にはすでに終了していることを表し、開始から終了までの持続過程に焦点を置き、その動作の内部時間を描写することができる(図 5-5)。したがって、時間的幅を持たない瞬間動詞と共起できない。

図 5-4. “～过”が表す「完了」

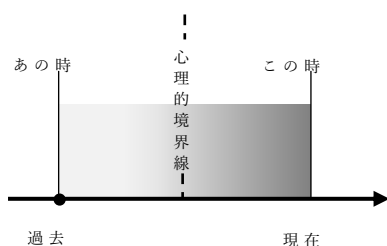
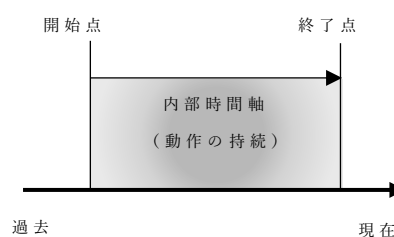


図 5-5. “～完”が表す「完了」



さらに以下の例を挙げて説明する。

(18) a. 刚才我去找过老王了，他不在家。（朱繼征 2000:66）

（さっき王さんのところへ行ったけど、留守だった。）

b.\*刚才我去找完老王了，他不在家。（朱繼征 2000:66）

時間詞“刚才(さっき)”が示す時点は、発話時点の「この時」と遠く離れていないが、自然に心理的境界線の他方側、すなわち「あの時」と位置付けられる。また、(18)が示すように、瞬間動詞“找(訪ねる)”は、“～过”と共起して、動作の完了を表すことができるが、“～完”と共起できない。それは、時間的幅のない瞬間動詞は、事象を「点」としてしか捉えられず、その事象

の内部時間の持続を「線」として捉えられないからである。

次の節からは、様態描写と否定副詞を加え、以上の観点をさらに論述する。

#### 5.4.2.1. 様態描写を加える場合

以下の例を見てみよう。

(19) a. 她慌慌张张地吃完了晚饭。

(彼女は慌てて晩ご飯を食べた。)

b.\*她慌慌张张地吃过了晚饭。

(19)では、“慌慌张张地(慌てて)”という様態描写が現れ、“～过”を用いることができない。なぜなら、“慌慌张张地吃(慌てて食べる)”というのは、一定の時間内で持続する動作であり、それを「点」的な場面として見なすことができないからである。つまり、様態描写の“慌慌张张(慌てて)”を付けることによって、“吃晚饭(晩ご飯を食べる)”という出来事は内部的に時間の幅が生じ、“～过”と共起できない。さらに、以下の例を加えて説明する。

(20) a. 水桶里的水一滴一滴地漏完了。(朱繼征 2000:68)

(バケツの水は少しずつ漏れてなくなってしまった。)

b.\*水桶里的水一滴一滴地漏过了。

(21) a. 他认真地听完了这个故事。

(彼はこの物語を最後まできちんと聞いていた。)

b.\*他认真地听过了这个故事。

(20)では、バケツの中の水が漏れ続け、段々なくなったという場面を表している。ここでの“一滴一滴地(少しずつ)”は、水が漏れはじめてから全て

なくなるまでの過程を描写し、“漏(なくなる)”という動作に時間の幅を与える。また、(21)の“认真地(きちんと)”は、「聞く」の態度を表現する。つまり、(20)と(21)で現れる“一滴一滴地(少しずつ)”、“认真地(きちんと)”のような様態描写は、いずれも動作進行に対する描写であり、出来事の内部時間に幅を付け加える機能を果たしている。そしてこのような場合では、“～完”だけが用いられ、“～过”は適用できない。

#### 5.4.2.2. 否定副詞を加える場合

「完了」をあらわす“～过”に関する研究によく見られる記述は、「動作や状態が完了しており、現在それが継続していないことを表す」というものである(陈平 1988; 龚千炎 1991; 吕叔湘 2019; 劉綺紋 2006; 渡辺 2009)。以下の(22)見てみよ。

(22) a. 这本书我只看过一半。(吕叔湘 2019:159)

(この本を半分だけ読んだことがある。)

b. 这本书我只看完了一半。

(この本の半分まで読んできた。)

(22a)は、過去に発生したことを語り、「今は読んでいない」というニュアンスが読み込まれる。一方、(22b)は、読書の進捗に関する話であり、「読む」という動作が現在まで持続するかどうかを問題にしない。さらに、動作進展の程度に否定副詞を加える例を考察する。

(23) a. 这本书我看过了，但是没有看到最后。

(この本を読んだけど、最後まで読まなかった。)

b.\*这本书我看完了，但是没有看到最后。

(23a)は、「最後まで読まなかった」という文脈から、「本を読む」という出来事がすでに終了したが、「本を完読した」までに到達していないことを表している。すると、“～过”を用いる(23a)は成立するが、(23b)のように“～完”を用いることができない。それは、“看完”を言うために、「完読」がその前提条件とされるからである。また、(23a)において、“这本书我看过了”が表すのは、「私はこの本を読む」という、時間軸上過去での1点に圧縮された事象全体が生起したことであり、動作の内部時間は描写されていない。

次は時間的に前後関係が存在する例である。

(24) a. {不/没} 吃完饭, 就不能出去玩。

(ご飯を食べ終わらないと外で遊べない。)

b.\* {不/没} 吃过饭, 就不能出去玩。

“吃完(食べ終わった)”は「食べる」という動作の開始から終了までの持続過程に焦点を置く。(24a)において、“{不/没} 吃完”は動作のプロセスの完結を否定するが、次の動作との接続が可能である。つまり、外部時間上での先後関係に影響を与えない。一方、“吃过饭(食べた)”は、「食べる」という動作が心理的時間軸上の「あの時」に発生したことを表す。したがって、(24b)の“{不/没} 吃过饭”は、「あの時」に発生したということを否定した以上、「あの時」から「この時」へと時間が経過しておらず、「この時」と「外で遊べる」の時間関係が不明瞭になる。それで、「ご飯を食べる」という前提と「外で遊べる」こととの時間上の前後関係がともに不明瞭になり、(24b)は非文となる。

ところで、“～过”の否定形式である“不/没+V 过”は、過去における出来事の発生を否定するため、いわゆる「今まで経験がない」ことを表している。

通常このように、「完了」を表す“～过”は、否定副詞が加えられた場合に用いることができない。

(25) a. 不到黄河心不死。

(黄河まで行き着かないとあきらめない。)

b.\*不到过黄河心不死。

さて、以上の考察結果を踏まえながら、改めて前に挙げた(2)と(3)を分析する。

(26) 小罗不慌不忙，侧身躲过尖刀，猛地飞起右腿，一脚踢在歹徒的手腕上。

(=(2))

(羅さんは慌てず身をかわして、あのナイフをよけた。そして右足をぱっと上げて、悪漢の腕を蹴った。)

(27) 我接过奖状走下台去。(=(3))

(私は賞状を受取って台の下へ降りた。)

一見すると、(26)と(27)のような事例は「移動」と連想されやすいが、該当のスキーマのプロトタイプに該当しない。陳瑩(2017)では、このような例を移動事態と見なし、“～过”の方向義によって説明した。実際には、これに対応する日本語の訳文を見て分かるとおり、「～シタ(完了)」の角度で解釈することが可能である。(26)の“躲尖刀(ナイフをよける)”は、時間軸上の一点として心理的境界線を通り、完全に過ぎ去って行ったが、その後の「足を上げる」、「悪漢の腕を蹴る」のような一連の行動の前提となっている。また、(27)において、“接过奖状(賞状を受取った)”という動作が「完了」しないと、後接の動作が発生しかねる。こういう形で、「あの時」に位置付けられ

る出来事は「この時」に行なう動作とつながっている。そのゆえ、「完了」を表す“～过”の後ろには、往々にして継続的な事象が伴う。

(28) 我们吃过午饭再去。 《白》

(私たちは昼食を終えてから出かけよう。)

(29) 他看过文件后用笔圈阅。 《白》

(彼は文書を閲覧後、筆で自分の名前に丸をつけた。)

(30) 刚下过大雨，地里水汪汪的。 《白》

(大雨が降ったばかりで、地面が水浸しになっている。)

#### 5.4.3. “～过” が表す「経験」

現代中国語において、動詞に後接する“～过”は二つあり、その一つは「動作の完了を表す」、もう一つは「以前そのような事があったことを表す(経験)」(呂叔湘 2019; 孔令达 1986; 刘月华 2019)。両者の関係について、渡辺(2009)は「“～过”の本来的な意味機能は、出来事の発生を前提とし、その出来事が終結を見ており、かつ、その結果状態なども残っておらず、出来事や状態が完全に過ぎ去っているという局面を語ることにある。そして、発話時における該当の出来事の影響からの解放・断絶という意味が転じて、過去の経験という意味を表す」と指摘している。

池田(1996)は、「シタコトガアル」が用いられる文中に時間詞が現れる場合、その時間詞は「アル」に掛かるのではなく「シタ」に掛かっていると述べる。そして、「今週」のような時間詞は「シタ」を表す“～过”と共起できることを挙げている。呂叔湘(2019:248)では、“～过”は過去の経験を表すので、必ず過去という時間と関連を持つと述べている。

(31) a. 去年我们游览过长城。（吕叔湘 2019:248）

（去年長城に遊びに行ったことがある。）

b. 昨天我们游览完了长城。

（昨日、長城に遊び終わった。）

一方、“～完”は「完了」を表すが、必ずしも過去とは関連がない。(32)のように未来の話に用いることもできる。

(32) a. 接下来的计划是游览完了长城再去参观水库。

（つぎの予定はまず長城に行き、それからダムを見学する。）

b.\*接下来的计划是游览过长城再去参观水库。

ここで、「経験」を表す“～过”は、時間領域の「存在」を表し、出来事の有無を第一義的に表現すると考えられる。本節では、時間的幅の側面から、改めて“～过”と“～完”の時間詞との共起関係を考察する。

(33) a. 我一周就写完了论文。

（私は一週間かけて論文を書き終えた。）

b.\*我一周就写过论文。

(34) a. 手术进行得很顺利，一个多小时就做完了，几乎没有出血。（CCL:张洁《世界上最疼我的那个人去了》<sup>3)</sup>

（手術は順調に行われ、一時間弱で終わったし、ほとんど出血しなかった。）

b.\*手术进行得很顺利，一个多小时就做过了，几乎没有出血。

(35) a. 第一期改造设计年产7万吨尿素，他们一年就搞完了。（CCL:1994年

---

<sup>3)</sup> 《世界上最疼我的那个人去了》，张洁，山东画报出版社，2006。



报刊精选)

(第一期の改造計画である、尿素 7 万トンの年生産量を、彼らはわずか一年でクリアした。)

b.\*第一期改造设计年产 7 万吨尿素，他们一年就搞过了。

(33)から(35)までの時間詞“一周(一週間)”、“一个多小时(一時間弱)”、“一年(一年)”は外部時間軸との関連がなく、動作の持続時間を表している。それらは内部時間の幅を示し、一点に圧縮できないため、“～过”を用いない。さらに、動作の完了とともに、いずれの動作対象も「尽くす」という状態に到達したことが分かる。したがって、“～完”を用いることが適切である。

しかしながら、以下のように“～过”が用いられるが、“～完”は用いられない例もある。

(36) a. 光这周就下过 3 次雪了。

(今週だけで雪が 3 回も降った。)

b.\*光这周就下完 3 次雪了。

(37) a. 这是我吃过的最美的午餐，迄今犹念念不忘。(CCL:1995 年《人民日报》)

(それは私が食べた中で一番美味しいランチで、今までも心に留め続けている。)

b.\*这是我吃完的最美的午餐，迄今犹念念不忘。

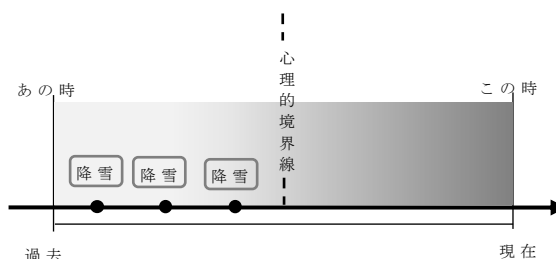
時間詞の“这周(今週)”と“迄今(今まで)”は、1つの動作の持続に消費した時間でなく、発生した期間を指している。(36a)は、過去の天気状況を振り返って、「あの時」のこういう状況をこれまでにどれだけ経験したかを強調し、「この時」とつながっている。また、「雪が 3 回も降った」というのは、ある

時期にこの動作が繰り返し起こったことを表し、事象自身の内部時間に関する情報が含まれていない。また、(37a)は食べ物を食べ尽くしたかどうかに関わらず、「食べた」の有無を制約条件とする。これで、具体的な食事過程が省略され、それぞれ「今まで」という時間軸上にある1つの点と見なされる。こういう事象には“～过”のみが使える。かつ、「開始→終了」という持続過程を表すことがない以上、“～完”を用いることは不適切である。ところで、ここの時間詞は、「期間」であるか、それとも「時点」であるかのように、切り分けることはできない。例えば、“去年终于写完了博士论文。(去年やっと博士論文を書き終わった。)”のように、プロセスの終端として、動作の終了点を示す例では、“～完”は「時点」を表す時間詞と共起できる。

図 5-6. “我一周就写完了论文。”



図 5-7. “光这周就下过3次雪了。”



(33)から(35)のような時間詞は、動作が実施されてから完了までの所要時間を表すものである。時間軸上の「線」として見なされ、動作の開始・持続・終了を示すことができるような時間詞は、時間的幅を要求する“～完”と共起する。(36)から(37)の時間詞は、動作の起こる時期を表すことが可能だが、動作の持続に時間的幅を提供できない。時間的幅のない事象は、動作の進行過程がまとまった1つの「点」としてしか捉えられず、“～过”を用いて、動作の完了を表すことができるが、“～完”を用いることができない。

### 5.5. まとめ

本章では、様態描写や否定副詞、及び時間的修飾成分を加える例に基づき、“～过”と“～完”が表す事象の内部時間の幅に着目して、比較を行った。その結果、両者の使い分けや意味特徴について、以下のような結論を得た。

“～过”は、動作の開始から完了までの全過程を時間軸上過去にある1点に圧縮し、動作の内部時間に注目しない。したがって、「動作性の弱い動詞」は内部的に時間の幅を持つため、“～过”と共起できない。

一方、“～完”は、時間軸においてある期間内で動作が行われ、基準時にはすでに終了していることを表し、開始から終了までの持続過程に焦点を置き、その動作の内部時間を描写することができる。そのため、時間的幅を持たない瞬間動詞と共起できない。

①様態描写を加える場合、事象全体が時間的幅を持つため、“～过”は用いられず、“～完”だけ用いられる。

②否定副詞を加える場合は、動作の連続性を否定することと、動作の発生を否定するという二つの状況に分けられる。前者には、線状過程を要求する“～完”が用いられず、“～过”を用い、動詞の意味する行為が完了したことで、どのような状態が現在まで生じているかを表す。一方、後者は時間上の先後関係が不成立であることから、“～过”を用いられず、“～完”のみを使う。

③時間的修飾成分を加える場合、“～过”は必ず過去という時間と関連を持つが、“～完”は必ずしも過去と関連がなく、現在・未来に用いることもできる。さらに、時間軸上の「線」として見なされ、動作の開始・持続・終了を示すことができるような時間詞は、時間的幅を要求する“～完”のみと共起できる。時間的幅のない事象は、動作の進行過程をまとめた1つの「点」としか捉えられず、“～过”を用いて、動作の完了を表すことができるが、“～完”を用いることはできない。

さらに、以上の分析を通して、“～过”の各意味機能において、それらの関連性を改めて考えた。

空間上の移動過程を認知する際に、自然に「コチラ」と「アチラ」という対立的な概念が生まれ、それを分ける心理的な境界線が現れる。“～过”が表す移動の図式は、「コチラ」と「アチラ」を分ける心理的な境界線が、「移動経路」と交わり、交差点が形成されることを描く。それで、“～过”の方向義は、移動事象がそのような「点」を通過し、一方側から他方側へ移転することを表している。

一方、“～过”の時間的用法は、「コチラ」と「アチラ」の境界線を通過する」という基本的な意味と同じイメージを共有する。それは、「あの時」と「この時」を仕切る心理的境界線を生じるという類似点が捉えられ、過去で完了したことが、「あの時→この時」のかたちで現在とつながっているということである。また、経験義を表す“～过”は、あることをこれまでにどれだけ経験したかを述べ、やはり「あの時」から「この時」までのつながりが存在する。このように考えれば、基本の方向義と、「完了」や「経験」を表す結果義の間に、共通の要素が見えるようになり、意味が派生する規則もわかるようになる。

## 第6章

### 複合方向補語の目的語位置について

### 6.1. はじめに

1.1 で述べたように、現代中国語の方向補語は「単純方向補語」と「複合方向補語」の 2 つのグループに分けられる。「単純方向補語」は“来/去”及び“上/下/进/出/回/过/起/开”などの方向動詞が一般動詞の後に用いられる構造である。「複合方向補語」は“上/下/进/出/回/过/起/开”が“来/去”と共に用いられ、“上来/下去…”のようになる構造である。

複合方向補語とその目的語の語順には次の 3 種類があるとする(杉村 1994; 守屋 1995; 西川 2007; 丸尾 2010; 吕叔湘 2019; 刘月华等 2019)。複合方向補語における一般動詞を V、動詞と方向補語の間で位置する名詞成分を N、“上/下/进/出/回/过/起/开”などの方向動詞を x、“来/去”を y で表すと指摘したあと、次の例を挙げる。

(1) A 型: V-N-x-y (搬一把椅子进来。)

B 型: V-x-N-y (搬进一把椅子来。)

C 型: V-x-y-N (搬进来一把椅子。)

(椅子を一脚運んで入ってくる)(杉村 1994:272)

つまり、目的語は複合方向補語の間に位置してもよいし、複合補語の前後に位置してもよいことになるが、これら三種類の語順の成立要件はそれぞれ異なる。これらのうち、「N」が「x」と「y」の間に生じる B 型は、複合方向補語の語順の基本形として考えられており、その成立要件についてはすでに多くの研究がなされている。しかし、A 型と C 型についてはこれまで十分に考察されてはこなかった。本研究はまず、これまでの研究を整理し、三種類の語順のそれぞれの特徴と成立要件を明らかにする。

## 6.2. 先行研究

### 6.2.1. V の性質による語順の変化

事態が「未然」の事態であるか、それとも「已然」の事態であるかが、複合方向補語の語順に影響を与える。刘月华(2019:570-571)では、「宾语位于趋向补语的中间(B型)是最常见的, …宾语位于复合趋向补语后(C型), 一般用于已经发生的动作。(実現していない動作を表す場合、Nは複合方向補語の間に置かれること(B型)が多く。また、Nは複合方向補語の後ろに置かれる場合(C型)には、Vがすでに実現した動作を表すことが多い。)」と説明されている。

#### (2) 未然事態(B型)

把椅子搬出房间去。(刘月华等 2019:570)

((その)椅子を部屋から運び出してください。)

#### (3) 已然事態(C型)

他从房间里搬出来一把椅子。(刘月华等 2019:571)

(彼は部屋から一脚の椅子を運び出してきた。)

さらに、杉村(1994)によると、Vが「自動詞」であるか、それとも「他動詞」であるかも語順の決定要因であるという。例えば、Vが自動詞である場合、A型は用いられない。

#### (4) A型: \*走一个女人出来。

B型: 走出一个女人来。

C型: 走出来一个女人。

(女が一人出て来た。)(杉村 1994:273)

### 6.2.2. 目的語の性質による語順の変化

目的語の位置は方向補語の種類、その性質によって変わる。本節では目的語の性質の違いがその位置に関与していることを明らかにする。

まず、N が人・物を表す名詞(句)である場合と、場所を表す名詞(句)である場合を考えよう。杉村(1994)は、目的語が人・物を表す名詞(句)の場合には、“来/去”の前のみならず、後ろに置くことも可能であると指摘している。

#### (5) 対象目的語：人・物を表す名詞(句)

A 型：他买(了)一本书回来。

B 型：他买回一本书来。

C 型：他买回来一本书。

(彼は本を一冊買って帰ってきた)

しかし、目的語が場所を表す名詞(句)であれば、“来/去”の前に置かれ、その語順は B 型に限られる。

#### (6) 場所目的語：場所を表す名詞(句)

跑下楼梯来。

(階段を駆け下りてくる)

また、目的語が数量修飾語を伴った「不定表現」であるか、それとも固有名詞のような「定表現」であるかによっても、語順が決定される。目的語が定表現である場合、通常 A 型、C 型は用いられず、B 型のみが使われる(杉村 1994)。



(7) A 型：？拉李平出来！

B 型：拉出李平来！

C 型：\*拉出来李平！

(李平を連れ出して！) (杉村 1994:273)

複合方向補語とその目的語の語順の成立要件をまとめると、次のようになる。

表 6-1. 先行研究における 3 種類の語順の成立要件

成立要件 対応語順		A 型	B 型	C 型
V	未然事態	○	○	*
	已然事態	*	○	○
	自動詞	*	○	○
	他動詞	○	○	○
目的語	対象目的語	○	○	○
	場所目的語	*	○	*
	不定表現	○	○	○
	定表現	*	○	*

(注)① “\*”：容認できない、“○”：容認できる

### 6.3. 問題点

以上のように、複合方向補語の 3 種類の語順の決定要因は部分的に明らかになっているものの、そのようになる原因について、ほとんど言及されていない。また、未然事態 N に対応する A 型と B 型、自動詞 V に対応する B 型と C 型、已然事態に対応する三者の相違についてもまだ研究の余地があると

考えられる。

次節では、複合方向補語の語順の対応状況を考察し、電子コーパスを活用しながら分析する。

#### 6.4. 分析

“了”は動詞の直後に位置する場合、動作が実現していることを叙述し、過去で実現した事態を叙述する際に用いない。例えば、

(8) \*他昨天就跑了回来。

(9) 他昨天就跑回来了。

(彼は昨日戻って来た。)(刘月华 2008:47)

また、“了”は方向補語の後に位置する場合、未然事態を叙述し、已然事態にも用いる。

(10) 眼看就要赶上来了。

(もうすぐ追いついて来る。)(刘月华 2008:47)

(11) 她已经毫不犹豫地站起来了。

(彼女は思い切って立ち上がった。)(刘月华 2008:47)

刘月华(2008)に基づき、本研究はまず、アスペクト助詞“了”を付加できる位置により、複合方向補語の意味上一体化している部分を識別する。

(12) ( “了” は動詞の直後に位置する )

A 型 : 他从书包里拿(了)一本书出来。

→ 他从书包里拿一本书出来(\*了)。

【彼-取る+本-出て来る】

(13) ( “了” は方向補語の後に位置する )

B 型 : 他从书包里拿出(了)一本书来。

→ 他从书包里拿(\*了)出一本书来。

【彼-取り出す+本-来る】

C 型 : 他从书包里拿出来(了)一本书。

→ 他从书包里拿出(\*了)来一本书。

【彼-取り出す(のは)+本】

(12)(13)によって、“了”を付加できる位置は固定されることが分かった。  
ここで、3種類の語順における構造関係は、A型が  $V/xy$  であり、B型が  $Vx/y$  であり、C型が  $Vxy$  であると仮定する。

さらに、杉村(1994)「V が自動詞である場合、A 型は用いられないが、B 型、C 型は対応できる」という指摘について、再度分析する。

(14) A 型 : \*走一个女人出来。 (= (4))

B 型 : 走出一个女人来。

C 型 : 走出来一个女人。

(女が一人出て来た。)

(14)では、動作主「女」が“走”により、“出”という結果に至る。ここでは、 $V$  と  $x$  は動作主を指向しているが、 $y$  の“来”は  $V$  を指向している。 $Vxy$  の

うち、Vx が一体として考えられるため、V/xy の A 型は不成立である。

ここまで得た複合方向補語の内部構造の關係に基づき、次節では、A 型と C 型をそれぞれ基本型である B 型と比較する。

#### 6.4.1. A 型と B 型の比較

##### 6.4.1.1. 移動様態を表す場合

A 型と B 型は表す意味が近く、常に置き換えることが可能である。

(15) A 型：一天，小芳带了两瓶好酒回来，与大宏一起喝两杯。（CCL:李文澄《努尔哈赤》<sup>1)</sup>）

B 型：一天，小芳带回了两瓶好酒来，与大宏一起喝两杯。

（ある日、芳さんがよいお酒を二本持って帰り、大宏くんと一緒に飲んだ。）

(16) A 型：我从前住在岐下，听说猪肉味道最美，就派人去买一头猪回来…  
（CCL:《读者(合订本)》）

B 型：我从前住在岐下，听说猪肉味道最美，派人去买回一头猪来…

（私は昔、岐下に住んでいた時、その豚肉が美味しいと聞いて、一匹買ってもらったことにした。）

また、刘月华(2008)は「方向補語の前の動詞が他動詞のとき、方向補語は普通、動作対象の方向を表す」と述べ、以下の(17)を挙げている。

---

<sup>1)</sup> 《努尔哈赤》，李文澄，中国戏剧，1999。

(17) 爸爸买回来一些水果。(刘月华 2008:3)

【お父さん-買う+果物-帰って来る】

(お父さんは果物をいくらか買って帰ってきた。)

つまり、(17)では、動作対象の「果物」の移動に焦点を置かれ、それを前景化させる。動作対象の移動方向を際立たされる一方、動作主の「お父さん」の移動が背景化される。さらに(18)と比較する。

(18) A 型：爸爸买了一些水果回来。

B 型：爸爸买回了一些水果来。

(お父さんは果物をいくらか買って帰ってきた。)(刘月华 2008:3)

ここで(17)と(18)が示した現象に基づき、本研究は B 型が動作対象の方向を前景化するものと仮定する。しかし、“回来”とは「元の場所に戻って来る」ことを意味する。文脈によると、(18)の「元の場所」が動作主の「お父さん」の立場に対する概念であるべきである。ここで問題になるのは、(18)の A 型の複合方向補語“买回来”が動作主の方向を表すとも言えるだろうかということである。

それを検証するために、連動式「V 着 xy」を導入し、考察する。連動式“V 着”は複合方向補語 xy と共起すると、「V の状態で移動する」という意味を表す。B 型は連動式に対応できず、A 型は対応する。(19)の A 型から(22)の A 型では、Vxy が話題として提示される動作主(主語)に属し、動作主の移動様態を前景化する傾向が現れている。

(19) A 型：朋友，你一定会带着未婚妻回来的，生活的幸福在等待着我们大家。(CCL:当代世界文学名著鉴赏词典)

B 型：\*朋友，你一定会带回着未婚妻来的，生活的幸福在等待着我们大家。

(友よ、きっとあなたは婚約者を連れて戻って来るでしょう。幸せな生活が皆を待っているよ。)

(20) A 型：我拿着杯子过去，“周医生，我是关大雄。”

(CCL:亦舒《香雪海》<sup>2)</sup>)

B 型：\*我拿过着杯子去，“周医生，我是关大雄。”

(私はカップを持って行って、「周先生、私は関大雄です。」と言った)

(21) A 型：前天中午，又有一伙人抬着一口棺材进来了… (CCL:《读者(合订本)》)

B 型：\*前天中午，又有一伙人抬进着一口棺材来了…

(一昨日の昼、また何人かが棺桶を運んで入って来た。)

(22) A 型：沈楠进屋不大会儿工夫就拎着包出来了，身后跟着她的爷爷、奶奶、三叔、三婶依依不舍地相送。(CCL:电视剧《天道》<sup>3)</sup>)

B 型：\*沈楠进屋不大会儿工夫就拎出着包来了，身后跟着她的爷爷、奶奶、三叔、三婶依依不舍地相送。

(沈楠は部屋に行き、まもなくカバンを持って出て来た。その後ろでは彼女のおじいさん、おばあさん、三番目の叔父さん叔母さんが名残惜しそうに見送りをしていた。)

---

<sup>2)</sup> 《香雪海》，亦舒，南海出版公司，2002。

<sup>3)</sup> 《天道》，张前导演，中国大陆电视剧，2008。

#### 6.4.1.2. 「随伴移動」を要求する A 型

B 型より、A 型の使用可能範囲は限られている。なぜなら、B 型では、主語と目的語 N のどちらかが移動すれば成立できるが、主語が N に影響を与えて両方が移動するときは A 型の語順のみが容認されるからである。A 型が表す移動事態は「随伴移動」でなければならない。「随伴移動」とは、主語に当たる部分がシテとして、動作対象の N を移動させることである。例えば、(23) から (25) が示すように、主語だけが移動主体となる出現文では、B 型のみが容認される。

(23) A 型：\*从房间走一个女人出来

B 型：从房间走出一个女人来。

(女が一人部屋から出て来た)

(24) A 型：\*四周长杂草起来

B 型：四周长起杂草来。 《中》

(周りに雑草が生えてきた。)

(25) A 型：\*时间久了，他们竟然谈感情出来

B 型：时间久了，他们竟然谈出感情来。

(長い間の付き合いの中で、愛情が生まれてきた。)

さらに、主語が移動するのに対し、目的語が移動不可能の「場所」になる場合、B 型のみが対応する。

(26) A 型：\*女人走教室出来

B 型：女人走出教室来。 《中》

(女の人が教室から歩いてきた。)

(27) A 型：\*皮球滚里屋进来

B 型： 皮球滚进里屋来。 《中》

(ボールがぽっと奥の部屋に転がってきた。)

(28) A 型：\*敌人准备打山上去

B 型： 敌人准备打上山去。 《中》

(敵は山に攻めて行こうとしている。)

(29) A 型：\*能帮我提楼上去吗？

B 型： 能帮我提上楼去吗？ 《中》

(上の階に持って上がるのを手伝ってもらえますか？)

(23)から(29)は、主語か N かどちらかだけが移動する事態を表す。したがって、A 型が表す移動事態は「随伴移動」でなければならないため、動作対象がなく、V が自動詞の場合、A 型は容認されない。「主語→動作主」「N→動作対象」の対応関係が成立するときのみ、A 型を用いる。

主語と N が同時移動できるように要求するというのが A 型の成立要件の一つである。その証拠に主語と目的語 N を両方とも移動体にすると、A 型は容認される。

(30) A 型：他搬一把椅子进来了。

B 型：他搬进一把椅子来了。

(彼は椅子を運んで入って来た。)



(31) A 型：他提一壶水进来。

B 型：他提进一壶水来。 《中》

(彼はやかんの水を手に提げて入って来た。)

(32) A 型：从姥姥家拿几只小鸡儿回来。

B 型：从姥姥家拿回几只小鸡儿来。

(おばあちゃんの家から数匹の雛を持って帰って来た。)

#### 6.4.1.3. 反復的な移動事態を表す場合

中国語のネイティブスピーカー100名に以下の例文において、A型とB型のいずれがより自然に感じられるかを調査したところ、(33)では「A型：B型＝80：20」、(34)では「A型：B型＝95：5」、(35)では「A型：B型＝76：24」、(37)では「A型：B型＝86：14」という結果が得られた<sup>4)</sup>。ここから、反復的な事態において、A型の容認度がB型より高いことが分かる。

(33) A 型：白天，老人去看车，车外头吃一顿饭，晚上带一斤馒头回来，养活孙子和重孙女。（CCL:1994 年报刊精选）

B 型：？白天，老人去看车，车外头吃一顿饭，晚上带回一斤馒头来，养活孙子和重孙女。

(昼間、老人は車の管理人をしていて、車の辺りでお昼をとる。夜になると、マントウを1斤持って帰って来て、孫と曾孫を養う。)

---

<sup>4)</sup> 本調査は、2017年11月3日から6日までにウェブサイト(<https://www.wenjuan.in/s/BfUzQz>)でアンケートの形で行われた。知人または知人が紹介してくれた中国語のネイティブスピーカーを調査対象者とし、計107件のオリジナルデータを集計した。そのうち、100件のデータを有効データとして採用され、調査結果を得た。また、調査対象の地域分布は、南方出身と北方出身の割合は51：49であった。

(34) A 型：我尽量不帶小贝回来，回也是快快就走。不给他们漏嘴的机会。

(CCL:六六《蜗居》<sup>5)</sup>)

B 型：？我尽量不帶回小贝来，回也是快快就走。不给他们漏嘴的机会。

(私はできる限り貝ちゃんを連れてこないようにしていた。来たとしてもさっさと行ってしまう。それは、彼らに口を滑らせる機会を与えないためだった。)

(35) A 型：每一次出街，总买一样玩具回来给运好…

(CCL:岑凯伦《合家欢》<sup>6)</sup>)

B 型：？每一次出街，总买回一样玩具来给运好…

(毎回町に行くたびに、彼女はいつも運好におもちゃを買って帰ってくる…)

(36) A 型：据说，上世纪五六十年代，巴金去北京，没有一次不买书回来的。

(CCL:新华社 2003 年 11 月份新闻报道)

B 型：？据说，上世纪五六十年代，巴金去北京，没有一次不买回书来的。

(話によると、前世紀の五六十年代、巴金は北京に行くと必ず本を買って帰ってきたそうだ。)

#### 6.4.2. B 型と C 型の比較

##### 6.4.2.1. 移動主体を焦点にする場合

「移動するのは N であること」に注目する場合、(37)に示すように、一般的に C 型を用いる。その証拠に、(38)(39)のように C 型は判断を表す“…的 是…”構文に変換できるが、A 型と B 型はできない。

---

<sup>5)</sup> 《蜗居》，六六，长江文艺出版社，2007。

<sup>6)</sup> 《合家欢》，岑凯伦，网络资料，1997。

(37) 他几次出国，都没买回来像样的东西，倒是每次都带回来一箱箱的科研资料 and 书籍。（CCL:1995 年《人民日报》）

（何回も出国して、まともなものは一切買って来なかったが、研究資料や本なら何箱も持ち帰った。）

(38) 走出来一个女人。（杉村 1994）

→ 走出来的是一个女人。

（女一人が出て来た。）

(39) 滚进来一个皮球。 《中》

→ 滚进来的是一个皮球。

（ゴムマリは転がりこんできた。）

また、N の内容に対する疑問文を作るとき、A 型や B 型ができず、C 型を用いる。

(40) 你能摸出来这是什么东西吗？ 《中》

（あなたは触ってみてこれがなになのかわかりますか？）

#### 6.4.2.2. 知覚上の方向と物理上の方向を統一することを要求する B 型

では、B 型の表現意図の重点はなんだろうか。一般的に、x は移動主体の物理的な方向を表し、y は知覚における主観的な方向を表す。以下の (41) かた (44) では、同一移動事態において、C 型は“来/去”両方と共起でき、B 型は“来”としか共起できない。

(41) B 型：他从书包里拿出一本书{来/\*去}。

C 型：他从书包里拿出{来/去}一本书。

(彼はカバンから本を一冊取り出した。)

(42) B 型：抬上一桶啤酒{来/\*去}。

C 型：抬上{来/去}一桶啤酒。

(ビール一桶を運んで上がった。)(陆 俭明 2002)

(43) B 型：游过一个人{来/\*去}。

C 型：游过{来/去}一个人。

(一人が泳いで渡った。)(陆 俭明 2002)

(44) B 型：跑出一条狗{来/\*去}。

C 型：跑出{来/去}一条狗。

(一匹の犬が駆け出した。)(陆 俭明 2002)

C 型は移動をその上から俯瞰的、客観的に描写でき、「移動するのは N」であることに重きを置くため、“来/去”両方と共起できる。一方、B 型は主観的な方向性に表現の重点を置き、知覚上の方向と物理上の方向を統一することを要求する。

#### 6.4.2.3. 定的な事物を表す目的語 N との共起

また、B 型が定的な事物 N と共起するのに対し、C 型は未知の事物を新情報として紹介する。そこで、C 型は固有名詞、場所を表す名詞、人称代名詞句と指示代名詞句などの定名詞句 N とは共起できない。

(45) B 型： 拉出李平来！ (= (7))

C 型： \*拉出来李平！

(李平を連れ出して)

(46) B 型： 毛主席抬起手来，连连点头说：“同志们都好啊！” (CCL:1994 年报刊精选)

C 型： \*毛主席抬起来手，连连点头说：“同志们都好啊！”

(毛主席は手を挙げて、何度も頷いて、「皆さん、こんにちは」と言った)

(47) B 型： 这时，小老虎转过身去，走了。(CCL:李文澄《努尔哈赤》<sup>7)</sup>)

C 型： \*这时，小老虎转过去身，走了。

(ちょうどその時、小さいトラはくるりと背を向け、どこかへ行ってしまった。)

(48) B 型： 他瞪着她，恨不得咬下她(的)一块肉来。

(CCL:琼瑶《梦的衣裳》<sup>8)</sup>)

C 型： \*他瞪着她，恨不得咬下来她(的)一块肉。

(彼は彼女をじろりと睨み、いっそ彼女の体をひとくち噛みちぎってやりたいと思った。)

(49) B 型： 假如世上还有人能替我们找出那凶手来，一定就是陆小凤。(CCL:古龙《陆小凤传奇》<sup>9)</sup>)

C 型： \*假如世上还有人能替我们找出来那凶手，一定就是陆小凤。

(この世の中で、この犯人を探してくれる人がいるとすれば、それは陸

---

<sup>7)</sup> 《努尔哈赤》，李文澄，中国戏剧，1999。

<sup>8)</sup> 《梦的衣裳》，琼瑶，花城出版社，1996。

<sup>9)</sup> 《陆小凤传奇》，古龙，珠海出版社，2005。

小鳳しかいない。)

#### 6.5. まとめ

本章では、先行研究を踏まえ、複合方向補語の 3 つの語順について、これまでの研究成果を整理し、それぞれの特徴と成立要件を考察した。

A 型と B 型は表す意味が近い。しかし、持続的、反復的な事態において、A 型が様態を表す機能を有するのに対し、B 型は有していない。また、A 型が表す移動事態は「随伴移動」であり、主語と目的語 N が同時移動することが A 型の成立要件の一つである。

B 型は複合方向補語の語順の基本形として考えられ、主観的な方向性を重視し、知覚上の方向と物理上の方向を統一することを要求する。

C 型は「的是」の形に変型できる。A 型、B 型が定の事物を表す目的語 N と共起するのに対し、C 型は未知の事物を新情報として伝える。

## 第7章

### 結 論

### 7.1. はじめに

本研究では、「動補構造」という文法範疇の下位分類の1つである「方向補語構造」を中心として考察したものであり、従来の研究よりも広範なデータを分析対象として、様々な文法現象の解釈を試みた。以下に各章で述べたことをとりまとめる。

### 7.2. 本研究の成果

第2章では、“下(来/去)+場所目的語 L”が場面によって異なる意味を表すことに着目し、“～下”が表す方向義を分析した。その結果、Lが移動における高い所であるとき、Lは移動の起点として現れる。動作主の変化を捉え、「動き」が強調されている。“～下+L”は<+過程性>である。Lが移動の経路を示すとき、“～下+L”は持続を表す副詞“在/正在”と共起できるため、<+過程性>となる。Lが移動における低い所ときは、移動の起点はほとんど明示されておらず、Lは到達点として現れる。また、移動後の位置状態が強調されている“～下+L”は<-過程性>であり、<+限界性>となることを解明した。

第3章では、方向補語の「状態義」について分析するため、「開始」を表す方向補語構造“～开(来)”と“～起来”における意味的相違を比較した。話者の焦点の当て方に着目して、両者の使用上の制約要因を考察した上、移動動詞と共起する場合、“～开(来)”は多方向への拡散を含意するという意味特徴を有し、“～起来”は勢いの発展という一方向の移動を表す。非移動動詞の場合、両者が表す開始の時点が異なることがわかった。

第4章では“～上(去)”と“～下”、“～起来”における方向義と結果義間の関連に着目し、それぞれの意味特徴を比較した。まず、目的語と前項動詞Vの特徴や性質によって、移動表現において強調される部分が異なることを問題点として指摘し、“～上/下”とその目的語の意味関係を検証した。考察



の結果を整理すると、次のように示される。第一に、“～上”“～下”と場所名詞 L との共起状況を考察した。L が移動の到達点として現れる場合、文中における両者の振る舞いは似ているが、その動作の構成が時間上に逆順になる。第二に、“～上”と“～下”が動作の対象を表す名詞 N と共起する状況を考察した。空間転位を表す場合、“～上”は動作の終端に焦点を当て、“～下”は始発端に焦点を当てる。また、“上+N”と共起できる V は<+付着>、<+接触>の意味を内包している。“下”と共起できる V は<+離脱>、<+落下>という意味特徴を有する。痕跡形成を表現する場合、“～上”は「動作によってある場所に付着する」ということに関心の焦点を置き、“～下”は「動作によって共に痕跡を留める」ことを表現し、「痕跡を留める」という結果に焦点を置くと考えられる。「獲得」を表現する場合、“～上”は「客観的な条件」を強調し、「動作が対象物に到達する」ことに焦点を当てる。“～下”は具体的な落下移動のイメージにもとづき、ここから「対象物が本来の場所(あるいは所属関係)を離れる」ことを意味する。次に、“～上去”と“～起来”の使い分けと意味的相違を考察した。「空間移転」を表す場合、“～上去”は動作を通じて、事物の一部分あるいは副次的な事物と全体また主要な物体と接触、付着することを表すことに対し、“～起来”は動作を通じて、2つの事物がつながることあるいは合併することを表す。「状態変化」を表す場合、“～上去”はある状態または程度に達することを表し、積極的なニュアンスを持つ。“～起来”は、人あるいは事物が一つの新しい状態に入ることを表し、は新しい状態の開始点を強調する。また、「評価や推測」を表す用法に関して、“～上去”は外部の視点からの観察や、現在の事物に対する評価や推測を行う場合のみに用いることがわかった。

第5章では、“～过”が表す各意味機能の関連性を考察した。方向補語構造“～过”の基本性質は「通過」という方向義を表すことであり、そこから「完了」と「経験」という二つの結果義が派生する。本章ではこれら各用法の関

連性を明らかにした。本章ではまず、様態描写や否定副詞、及び時間的修飾成分を加える例を対象として、“～过”と“～完”が表す事象の内部時間の幅を比較した。その結果、“～过”が示す「完了」義は動作の開始から完了までの全過程を時間軸上過去にある 1 点に圧縮し、動作の内部時間に注目しないことを明らかにした。また、“～过”の基本義である方向義は、空間上の移動過程を表すとき、自然に「コチラ」と「アチラ」という対立的な概念を生み、それを分ける心理的な境界線が現れることを指摘した。ここから、“～过”の基本の方向義は、移動事象がそのような「点」を通過し、一方から他方へ移転することを表していることがわかった。一方、“～过”の派生的用法である「完了」義は、基本の方向義と「コチラ」と「アチラ」の境界線を通過するというイメージを共有している。すなわち、「あの時」と「この時」を仕切る心理的境界線を想定し、過去で完了したことが、「あの時→この時」のかたちで現在とつながっていることを含意する。また、経験義を表す“～过”は、あることをこれまでにどれだけ経験したかを述べ、「あの時」から「この時」までのつながりを含意している。以上の考察により、基本の方向義と、「完了」や「経験」を表す結果義の間に、共通の要素が見えるようになり、意味の派生規則が明らかになった。

第 6 章では、杉村(1994)の主張を踏まえ、複合方向補語とその目的語の語順を A 型(“搬一把椅子进来”)、B 型(“搬进一把椅子来”)、C 型(“搬进来一把椅子”)という 3 種類に分け、考察を行った。これらのうち、A 型と B 型は表す意味が近い。しかし、持続的、反復的な事態において、A 型が様態を表す機能を有するのに対し、B 型は有していない。また、A 型が表す移動事態は「随伴移動」であり、主語と目的語 N が同時に移動することが A 型の成立要件の一つである。B 型は複合方向補語の語順の基本形として考えられ、主観的な方向性を重視する。C 型は“～的是”構文に変型できる。A 型、B 型が定的な事物を表す目的語 N と共起するのに対し、C 型は固有名詞、場所を

表す名詞、人称代名詞句と指示代名詞句などの定名詞句 N とは共起できないことを確認した。

### 7.3. 今後の展望

本研究では、方向補語の文法上使い分けと意味的相違について考察したが、まだいくつかの問題に関しては明確にすることができていない。その問題点を以下に挙げる。

① 本研究は第 6 章において、複合方向補語の目的語位置に関する研究を行った。興味深いことに、孟琮(1987)《动词用法词典》で挙げられた“搬起家来可麻烦了(引っ越すとなると非常に面倒だ)”<sup>1)</sup>と“这孩子喂起来可麻烦了(この子は食べさせるのが本当に厄介だ)”<sup>2)</sup>において、動目構造“V 起 O 来”と“V 起来”の使い分けという問題である。両者はいずれも、「開始義」を含意し、事物に対する評価を表す。そこで、今後の考察は“V 起 O 来”と“V 起来”の意味的相違、及び語用的使用制約にしていきたい。

② “V 上 O 了”の場合には、刘月华(2008)の方向補語の意味分類によると、“他抽上烟了。(彼はたばこを吸い始めた。)”での“～上”は「開始義」を表が、“他盯上我了(彼は私に狙った。)”の場合には、“～上”は「結果義」を表すとされる。同じ“V 上 O 了”の構文で、“～上”が表すのが「開始義」である場合と「結果義」である場合が存在するが、この二つの語彙を分ける判断基準は明らかにされていなく、今後の課題としたい。

---

1) 孟琮 1987:18

2) 孟琮 1987:792

# 参考文献

(アルファベット順)

## 日本語の文献

### 書籍

- 荒川清秀 2003. 『一步すすんだ中国語文法』, 東京: 大修館書店。
- 荒川清秀 2015. 『中国語文法論集—動詞を中心にした—』, 東京: 白帝社。
- 方美麗 2004. 『「移動動詞」と空間表現—統語論的な視点から見た日本語と中国語』, 東京: 白帝社。
- 郭春貴 2014. 『誤用から学ぶ中国語<続編 1>補語と副詞を中心に』, 東京: 白帝社。
- 劉綺紋 2006. 『中国語のアスペクトとモダリティ』, 大阪: 大阪大学出版会。
- 刘月华・潘文娛・故韓 1991. 『現代中国文法総覧(下)』, 東京: くろしお出版。
- 呂叔湘 2003. 『中国語文法用例辞典—「現代漢語八百詞増訂本」日本語版』 (牛島徳次・菱沼透翻訳), 東京: 東方書店。
- 興水優・島田亜実 2009. 『中国語わかる文法』, 東京: 大修館書店。
- 丸尾誠 2005. 『現代中国語の空間移動表現に関する研究』, 東京: 白帝社。
- 丸尾誠 2010. 『基礎から発展までよくわかる中国語文法』, 東京: 株式会社アスク出版。
- 丸尾誠 2014. 『現代中国語方向補語の研究』, 東京: 白帝社。
- 守屋宏則 1995. 『やさしくくわしい中国語文法の基礎』, 東京: 東方書店。
- 島村典子 2016. 『現代中国語の移動を表す述補構造に関する研究』, 東京: 好文出版。
- 杉村博文 1994. 『中国語文法教室』, 東京: 大修館書店。
- 杉村博文 2017. 『現代中国語のシンタクス(記述言語学者自選集)』, 大阪: 日

中言語文化出版社。

朱繼征 2000.『中国語の動相』,東京:白帝社。

谷口一美 2006.『学びのエクササイズ 認知言語学』,東京:ひつじ書房。

山田留里子 2003.『アスペクトをあらわす現代中国語方向動詞:“起来”を中心とした日本語への対応』,北京:北京大学出版社。

安本真弓 2009.『現代中国語における可能表現の意味分析:可能補語を中心に』,東京:白帝社。

## 論文

陳瑩 2017a.「方向補語“过”を伴う移動表現について」,『高橋弥守彦教授古希記念論文集』,国際連語論学会,79-88 頁。

陳瑩 2017b.「“跳下床”と“跳下水”—“V+下+N”構文について—」,『言語研究』(2),新潟大学現代社会文化研究科「言語研究」プロジェクト,58-66 頁。

陳瑩 2018.「複合方向補語における目的語の位置関係—“来/去”を伴う移動表現について—」,『現代社会文化研究』第 66 号,新潟大学大学院現代社会文化研究科,249-261 頁。

陳瑩 2019.「現代中国語における方向補語の研究—“～上”と“～下”の意味特徴について—」,『言語研究』(4),新潟大学現代社会文化研究科「言語研究」プロジェクト,23-32 頁。

陳瑩 2020a.「方向補語の状態義に関する研究—「開始」を表す“～开(来)”と“～起来”について—」,『現代社会文化研究』第 70 号,新潟大学大学院現代社会文化研究科,69-77 頁。

池田英喜 1996.「経験を表す「シタコトガアル」について」,『待兼山論叢 日本学編』第 30 号,大阪大学文学部,11-26 頁

黄利恵子 2002.「現代中国語における“V+上+L”構文—“上”の終結性をめ

- ぐって一」,『多元文化』(2),名古屋大学国際言語文化研究科国際多元文化専,107-117 頁。
- 望月圭子 1990.「動補動詞の形成」,『中国語学』(237),日本中国語学会,128-137 頁。
- 中根綾子 2008.「移動事態を表す Vx 句と V 到句の意味と形式」,『中国語学』(255),日本中国語学会,157-178 頁。
- 西川和男 2007.「日本語と中国語の違いからみた日本人に対する補語の教授法について」,『日中対照言語学研究論文集:中国語からみた日本語の特徴 日本語からみた中国語の特徴』(彭飛編集),大阪:和泉書院,203-224 頁。
- 王志英 2003.「「～起来」についての意味分析」,『日本中国語学会第 53 回全国大会予稿集』,76-80 頁。
- 王志英 2006.「中国語の“下”と“～+下”について」,『沖縄大学人文学部紀要』第 8 号,沖縄大学人文学部,13-24 頁。
- 王志英 2007.「“開”と“～開”の構文的文法機能についての分析」,『沖縄大学人文学部紀要』第 10 号,沖縄大学人文学部,53-64 頁。
- 王秀英 2014.「上昇を表す複合動詞の日中対照研究:「～上げる」と「～上(shang)」を対象として」,『文化=Culture』第 77 巻第 3・4 号,53-73 頁。
- 下地早智子 1998.「方向補語と目的語の語順について」,『人文学報』第 292 号:35-48 頁。
- 杉村博文 1992.「現代中国語における「むこう」と「こちら」の諸相」,『日本語と中国語の比較研究論文集(上)』,東京:くろしお出版,153-180 頁。
- 杉村博文 2012.「中国語における姿勢形成と空間移動—終端プロファイリングによる系列動作統合の視点より—」,『日中理論言語学の新展望 2 意味と構文』(影山太郎・沈力編),東京:くろしお出版社,125-143 頁。
- 杉村博文 2009.「方向補語を伴う移動表現の意味と形式—有対立空間における転位とその動力—」,中日理論言語学研究会会第 16 回研究会,1 月 11

日,同志社大学大阪サテライト。

平井和之 1991.「“～起来”の表す意味」,『東京外国語大学論集』第42号,147-164頁。

朱繼征 2004.「中国語の起動相について“开始～”と“～起来”の文法的使い分けと意味的分析を中心に」,『中国語学』(251),日本中国語学会,114-135頁。

高橋弥守彦 2013.「中日対照関係から見る“过+空間詞”」,『日本語文法研究会』,94-114頁。

渡辺昭太 2009.「“V 过”と「XはVしたことがある」の意味機能の差異:時間詞との共起関係を中心に」,『言語情報科学』(7),79-96頁。

楊安娜 2016.「「動詞+趨向補語」と「動詞+“到”」,2016年度日本中国語学会北海道支部例会,9月23日,小樽商科大学。

## 中国語の文献

### 書籍

- 戴耀晶 1997.《现在汉语时体系统研究》,杭州:浙江教育出版社。
- 丁声树 1961.《现代汉语语法讲话》,北京:商务印书馆。
- 范晓 1996.《三个平面的语法观》,北京:北京语言文化大学出版社。
- 房玉清 2008.《实用汉语语法》,北京:北京语言大学出版社。
- 郭霞 2013.《现代汉语动趋构式的句法语义研究:认知构式语法视野》,成都:四川大学出版社。
- 梁银峰 2007.《汉语趋向动词的语法化》,上海:学林出版社。
- 刘勋宁 1998.《现代汉语研究》,北京:北京语言文化大学出版社。
- 刘月华 2008.《趋向补语通释》,北京:北京语言大学出版社。
- 刘月华·潘文娱·故韡 2019.《实用现代汉语语法(第三版)》,北京:商务印书馆。
- 陆俭明 1992.《现代汉语补语研究资料》,北京:北京语言学院出版社。
- 吕叔湘 2019.《现代汉语八百词(增订本)》,北京:商务印书馆。
- 孟琮 1987.《动词用法词典》,上海:上海辞书出版社。
- 彭国珍 2011.《结果补语小句理论与现代汉语动结式相关问题研究》,杭州:浙江大学出版社。
- 王国桢 2005.《趋向问题研究》,北京:华夏出版社。
- 于康 2012.《语法学》,北京:高等教育出版社。
- 周红 2019.《汉语动趋式的认知语义研究》,上海:上海人民出版社。
- 曾传祿 2014.《现代汉语位移空间的认知研究》,北京:商务印书馆出版社。
- 朱德熙 1982.《语法讲义》,北京:商务印书馆。

### 論文

- 曹宏 2004.<论中动句的句法构造特点>,《世界汉语教学》3期:38-46页。



- 陈昌来 1994.〈论动后趋向动词的性质—兼谈趋向动词的研究方法〉,《烟台师范学院学报》4期:64-70页。
- 陈平 1988.〈论现代汉语时间系统的三元结构〉,《中国语文》第6期,401-422页。
- 陳瑩 2020b.〈伴随起点与终点共现的移动表现—关于方向补语“~上”与“~下”的语义不对称性〉,『中国語文法研究』2020年卷(通卷第10期),京都:朋友書店。
- 范继淹 1963.〈动词和趋向性后置成分的结构分析〉,《中国语文》第2期:136页。
- 房玉清 1992.〈“起来”的分布和语义特征〉,《世界汉语教学》1期:23-28页。
- 高顺全 2001.〈体标记“下来”、“下去”补议〉,《汉语学习》3期:12-14页。
- 高顺全 2005.〈复合趋向补语引申用法的语义解释〉,《汉语学习》1期:56-61页。
- 古川裕 2005.〈现代汉语的“中动语态句式”—语态变换的句法实现和词法实现〉,《汉语学报》第2期:22-32页。
- 郭锐 1997.〈过程和非过程—汉语谓词性成分的两种外在时间类型〉,《中国语文》第3期,162-174页。
- 龚千炎 1991.〈谈现代汉语的时制表示和时态表达系统〉,《中国语文》第4期,251-261页。
- 贺阳 2004.〈动趋式“V起来”的语义分化及其句法表现〉,《语言研究》3期:23-31页。
- 胡晓慧 2012.〈“V上/下”中“上”、“下”的语法化〉,《汉语趋向动词语法化问题研究》,广西:广西师范大学出版社,32-89页。
- 蒋华 2003.〈趋向动词“上”语法化初探〉,《东方论坛》5期:45-48页。
- 靳卫卫 1997.〈汉语的“V+起·来”与日语的“~シハジメル”〉,《汉语速成教学研究》第1辑,北京:北京大学出版社,263-270页。
- 金立鑫 2009.〈解决汉语补语问题的一个可行性方案〉,《中国语文》第5期:387-

398 页。

孔令达 1986.〈关于动态助词“过 1”和“过 2”〉,《中国语文》第 4 期,272-276 页。

李敏 2005.〈论“V 起来”结构中“起来”的分化〉,《烟台师范学院学报》24 卷 3 期:23-31 页。

刘月华 1987.〈表示状态意义的“起来”与“下来”之比较〉,《世界汉语教学》1 期:14-16 页。

刘月华 1989.〈趋向补语的语法意义〉,《汉语语法论集》,北京:现代出版社,29-46 页。

陆俭明 2002.〈动词后趋向补语和宾语的位置问题〉,《世界汉语教学》2 期:5-17 页。

卢英顺 2006.〈“下来”的句法,语义特点探析〉,《宁夏大学学报》5 期:30-34 页。

齐沪扬·曾传禄 2009.〈“V+起来”的语义分化及相关问题〉,《汉语学习》2 期:3-11 页。

沈家煊 1995.〈“有界”与“无界”〉,《中国语文》第 5 期:367-380 页。

宋文辉 2012.〈现代汉语表示起始义的趋向补语“起来”和“起……来”的关系〉,《世界汉语教学》26 卷 4 期:463-477 页。

杉村博文 1983.〈试论趋向补语“下”、“下来”、“下去”〉,《语言教学与研究》04 期:102-116 页。

史锡尧 1993.〈动词后“上”、“下”的语义和语用〉,《汉语学习》4 期:5-8 页。

王硕 2008.〈动词的结果体研究〉,硕士学位论文,长春:吉林大学。

王晓凌 2011.〈补语“起来”隐喻认知的过程分析〉,《安徽大学学报》:77-84 页。

吴锡根 2001.〈《金瓶梅词话》中的“来”句〉,《杭州范学院学报》4 期:66-70 页。

邢福义 2003.〈“起去”的语法化与相关问题〉,《方言》3 期:205-213 页。

邢福义 2015.〈“起去”：双音趋向动词语法系统的一个成员〉，《汉语学报》1期：2-12 页。

于康 2006.〈“V 上”中“上”的义项分类与语义扩展机制〉，《言語と文化》第 9 号，関西学院大学言語教育センター，19-35 頁。

于康 2007.〈“V 下”的语义扩展机制与结果义〉，《日本现代汉语语法研究论文选》，北京：北京语言大学出版社，250-268 页。

钟兆华 1985.〈趋向动词“起来”在近代汉语中的发展〉，《中国语文》第 5 期：359-366 页。

## 謝 辞

本研究を執筆するにあたり、多くの方々から励ましとご支援をいただいた。心より感謝の意を表したい。

本研究の主査である朱継征先生、副査である大竹芳夫先生、土屋太佑先生からは厳しくも温かな指導をいただいた。朱継征先生は、主指導教員として論文の構成から表現の細部にわたりご助言をいただいた。また、学会発表の際には貴重なご指導をいただき、研究者への道を導いてくださった。学問と生活を両立できるよう、生活面においても多くの助言をいただいた。大竹芳夫先生からは本研究の基盤となる学術論文、口頭発表原稿の細部にわたりご指導をいただいた。土屋太佑先生は日本語のチェックだけではなく、中国語と日本語の訳文も丁寧に細かくご指導くださり、貴重なご助言をいただいた。また、論文作成中に新潟大学江畑冬生先生、山梨大学の町田茂先生からは貴重なご指導とご助言をいただいた。先生がたの学問に対する真剣な姿勢には感銘を受けた。本研究は、先生がたのご助言と熱心なご協力なくしては完成していない。ここに記して深甚の謝意を表したい。

博士課程在学中、友人の張拡さん、筆者と同じ専攻の鄧鷗さん、呉琪琪さん、馬麗娜さんと傅文君さんの存在は研究を進めていく上で大きな励みとなった。

最後に、いつも心の支えになってくれた中国に住む家族に心から感謝しい。博士課程に進むことを快諾し、研究の道を歩むことを応援してくれたやさしい両親のことを書き留めておきたい。